

未来を担う人づくり 誰でもできる子どもの居場所

～「国際感覚にあふれ平和を愛する地球人を育てる」活動モデル～



未来の大人たちのために、今できること
放課後子どもプラン



生命憲章

はじめに

財団法人五井平和財団は、今、本格的に進行しているグローバル社会においては、私たち人類一人ひとりが、地球規模の意識に立って、すべての生命を尊重するまったく新しい価値観・倫理観を共有していくことが必要であると考えております。そしてこの考え方を生涯学習の枠組みの中で、いま子どもたちのために必要な喫緊の課題である「心と生命」の教育メソッドとして実現してゆくことを目指して努力を続けてまいりました。

そして、平成17年度より2年間、文部科学省が推進する「地域子ども教室推進事業（子どもの居場所づくり事業）」の委託を受け、ボランティアの方々のご協力のもと、全国20数カ所で「地球っ子広場」を開始いたしました。

平成19年度からは「地域子ども教室推進事業」の委託期間の満了に伴い、持続可能な自主運営の道を選択しつつ、文部科学省、厚生労働省の連携の下、内閣府の少子化対策の一環としても位置づけられ始まった「放課後子どもプラン」の効果的な推進の一助となるよう「総合的な放課後対策推進のための調査研究」事業に応募いたしまして、選考の結果、テーマを「国際感覚にあふれ平和を愛する地球人を育てる」とすることを条件に研究を委託されました。

文部科学省の指導のもと、全国の「放課後子どもプラン」担当の教育・福祉部局の皆様、公立学校、NPO/NGO団体、企業、様々な地域の協力者、また国連など国際的な諸機関の関係者など実に多様な分野の皆様にご支援・ご協力をいただき、私どもも全国の地球っ子広場の総力を結集し、研究に取り組んでまいりました。

お蔭様で、放課後や休日の時間を活用して「国際感覚にあふれ平和を愛する地球人を育てる」ための多様な活動モデルを策定・実施し、検証することができました。その成果をまず、平成20年1月15日に国立オリンピックセンターにおいて発表し、引き続き全国各地でオープンスクールの形で多くの方々にご体験いただき、今、必要十分なる検証を経て、ここに報告書として上梓できますことを、真に喜びとするものであります。

地域を挙げてさらには国を挙げて、年齢や様々なバックグラウンドなどすべての違いを超え、かつ、和気あいあいたる人と人との生命の触れ合いの交流を展開してゆく中で、大人も子どもも共に学び合う、この「新しい平和教育」の活動モデルが、全国市区町村において、最大限に広く多方面でご活用いただけますことを心より祈っております。

平成20年2月25日
財団法人五井平和財団

■前文

地球は進化する一つの生命体であり、地球上のあらゆる生きとし生けるものは、それぞれがみな、地球生命体を構成する大切な一員であると考えられる。従って、私達人類は、お互いに地球生命共同体の一員としての自覚を持ち、地球の未来に対して、共通の使命と責任を果たしてゆかねばならない。

地球進化の担い手はつまるところ私達一人一人であり、平和の実現は人類一人一人の責任と義務に他ならない。現在に至るまで、人類の多くは足ることを知らず、有限なる資源と領土をめぐる争いが、世界各地で繰り返されてきた。その結果として、地球環境に対しても多大なる悪影響をおよぼしてきた。新千年紀を迎え、世界平和実現の成否は、何よりも人類一人一人の意識の目覚めにかかっている。

今や人類すべてがみな自分自身の心の中に、平和と調和の世界を築いていくという、誰一人として免れることも怠ることも出来ない共通の使命を課せられているのである。

そして人類一人一人がこの共通の使命を認識し、お互いに強く結ばれていく時に、真の世界平和は達成されるのである。

今日まで、人類は、権力においても、富においても、名誉においても、また知識や技術や教育においても、それを持てる人、国、組織とそれを持たざる人、国、組織とに分れてきた。そしてそれを与える側と与えられる側、救う側と救われる側とに分れてきた。「生命憲章」では、それらの二元対立や差別意識を超えて、すべての個人や様々な分野が参加し、まったく新しい理念のもとに平和な世界を築いていく方向を提起するものである。

■原則

新しい時代を迎え、人類の進むべき方向はすべてに調和した世界である。つまり、すべての個人や国々が自由に個性を発揮しながらも、お互い同士、またあらゆる生きとし生けるものとも調和し合える世界である。そのような世界を実現するための原則は；

1 生命の尊厳

すべての生命を尊重し、愛と調和を基調とした世界。

2 すべての違いの尊重

異なった人種、民族、宗教、文化、伝統、習慣を認め合い、

尊重し合い、その多様性をたたえ合い、喜び合える世界。

そして、社会的にも身体的にも、精神的にも、また、あらゆる面において、差別や対立のない世界。

3 大自然への感謝と共生

人類は大自然の恩恵により生かされていることを認識し、動植物をはじめ、すべての生きとし生けるものに対し感謝の心をもって接し、大自然と調和、共生していく世界。

4 精神と物質の調和

物質偏重主義から脱却し、人類の健全なる精神性が開花した、精神文明と物質文明のほどよく調和した世界。物質の豊かさだけでなく、心の豊かさが価値を持つ世界。

■実行

個人として

従来の国家、民族、宗教が権威と責任をもつ時代から、個の時代へと変わってゆかねばならない。個の時代といっても個人が自己中心的に生きるということではなく、個が自立をし、人類の一員としての意識をもって、それぞれの責任と使命を果たしてゆく時代へと変革させていく必要がある。

そして個としての最大の使命は、それぞれが自己の中心に愛と調和と感謝の心を築き上げていくことである。

専門分野として

教育、科学、文化、芸術、宗教、思想、政治、経済等、様々な分野がそれぞれの専門知識、技術、能力を最大限に発揮し、平和世界実現に向けて、英知の結集と、協力体制を構築していく。

若者として

20世紀においては、親が、先生が、社会が、子ども達を教え、子ども達は常に教えられる立場にあった。21世紀は、大人も子どもから純粋性、無邪気、明るさ、英知、直観など子どもの素晴らしさを学びとり、共に高め合う生き方が大切である。

そして、未来に向けて子どもや若者が、平和創造の担い手としての積極的な役割を果たしてゆかねばならない。

未来を担う人づくり 誰でもできる子どもの居場所

～「国際感覚にあふれ平和を愛する地球人を育てる」活動モデル～

◎目次

はじめに

01 目次

02 国際感覚にあふれ平和を愛する地球人を育てる

04 全国成果発表会

地球っ子広場が提案する子どもの居場所づくり

06 課題●地域ぐるみの子育て連携体制

08 課題●心と生命いのちを育む愛と価値観

10 課題●孤立からの脱却 学校との強い連携

12 課題●意識の国際化・地域の国際化を図る

14 各地の体験報告●地球っ子広場の試みと提案

17 子どもの居場所 活動モデル

18 子どもの居場所 開設・運営・管理マニュアル

24 居場所の要かなめとなる教育観

26 子どもの居場所づくり 10カ条

28 ある日の子どもの居場所 ～一日の流れ～

29 アクティビティ実践マニュアル

34 実践済み！おすすめアクティビティ集

44 活動参考資料集

48 参加者・協力者・保護者の声 ～アンケートより～

52 「21世紀の国際人を育てる」未来へ向けた新たな視点

54 成果発表会と事業実施地域

56 本委託研究事業実施体制

『生命憲章』全文

国際感覚にあふれ平和を愛する地球人を育てる

財団法人五井平和財団

「総合的な放課後対策推進のための調査研究」事務局

今、私たちはあらゆる意味でグローバル化の波にさらされています。

「国際感覚にあふれ平和を愛する地球人を育てる」とは、本事業のテーマであります。この意味するところは、私たち全員が宇宙船地球号の乗組員であって、地球生命共同体の一員なのであるという意識の獲得に尽きるのであります。

現在、私たちが直面しているのは、地球温暖化、食の安全性などの問題に見られる、進みすぎた工業化のツケ、コンピューター、インターネットなどの急速な発達による情報過多や、知識そのものの陳腐化、金利経済など様々な人工的な仕組みの制度疲労、行過ぎた物質偏重の価値観と、その結果としての精神の不毛、また飽くなき欲望が生命の世界にまで達したかのように日々発生しているのは、生命倫理の問題など、一国のみの視点では、もはや論ずるに不十分な、世界全体を巻き込んだ危機の構図であります。今や、すべての人が地球規模の視野に立つてのまったく新しい価値観・倫理観を確立し、これを共有してゆくことが求められるまでの状況に至り、この歴史的要請にかなうようなパラダイムシフト（社会通念の一大変革）を成し遂げることが必要とされている状況です。

自分の国とよその国、自己的人種とほかの人種、日本人とガイジン、自分の文化・宗教とほかの文化・宗教などの二元構造での考え方を一日も早く脱却する必要があるでしょう。

地球温暖化でも、貧富の差でも、およそ今日的な問題はすべて、人類全体の意識が変わり、しかも、それが適切な行動に結びついてゆく時、はじめて解決の段階を迎えることができるものと思われれます。

そこで、正しく情報を判断し、答えを選択し、自らの意思で地球生命共同体の一員としての責任ある決断をし、行動をとる人間が大勢育たなければなりません。

私たちは、このような誰でも考えている当たり前のことが当たり前理解され、実行されるような方向性を目指し、世界中の意思を同じくする個人・団体と共に利他の心に根ざした「新しい文明」を構築することを謳い、行動を呼びかけています。そして今般、文部科学省から賜りました「国際感覚にあふれ平和を愛する地球人を育てる」というテーマこそ、未来の新しい文明を担う子どもたち・若者たちを育ててゆく最大の指標であると認識し、襟を正して、まことに多方面の皆様のご協力のもと活動モデルの策定、実施、検証、成果の取りまとめに鋭意努力を致しました。

この冊子が、放課後子ども教室、放課後児童クラブ等様々な子どもの居場所において日々ご活用いただければ、これに過ぐる幸せはございません。



■ 21世紀の子ども観

子どもは、地球生命共同体の明日を担う尊い存在であり、肉体のみの存在ではなく、内に高次元な地球生命共同体の一員としての意識を併せ持つ存在である

■ 教育価値

- 1 生命の尊厳
- 2 すべての違いの尊重
- 3 大自然への感謝と共生
- 4 精神と物質の調和



■ 行動規範

3つのお約束

- 1 人に迷惑をかけない
- 2 自分のことは自分でする
- 3 あまった力で、人の手助けをしよう

地球っ子広場が提案する子どもの居場所*づくり

——「全国成果発表会」から その課題と可能性について——

本事業では、各地の地球っ子広場における委託研究の実践を受けてその具体的な成果を発表するための「全国成果発表会」を、平成20年1月15日（火）国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて開催しました。教育・子育て関係者の皆様が多数お集まりの中、本事業に参加した全国13カ所の地球っ子広場から、様々な報告がなされ、その内容は講演発表を始め、体験談発表、作品展示、プログラムの体験ワークショップなど多岐にわたりました。このページでは、「全国成果発表会」で行われた発表を中心に、本事業の委託研究テーマ「国際感覚にあふれ平和を愛する地球人を育てる」に沿って実施された各地の成果をご報告し、放課後子どもの居場所づくりの課題とその実践の方法などについて提示してまいります。

*平成19年度より「放課後子どもプラン」の一環として実施されている、文部科学省が推進する「放課後子ども教室」。本編では、以下、子どもの居場所と称します。



平成19年度 文部科学省委託研究事業
「総合的な放課後対策推進のための調査研究」

全国成果発表会

—地球っ子広場からの報告と提言—

日時 平成20年1月15日（火）

午前10時～午後3時

会場 国立オリンピック記念青少年総合センター
カルチャー棟・小ホール

テーマ 「国際感覚にあふれ
平和を愛する地球人を育てる」



PROGRAM

全国成果発表会プログラム

第1部

- 10:00 開会挨拶 基調説明 五井平和財団の平和教育事業
五井平和財団理事長 西園寺裕夫
- 10:20 委託研究実施関係者の紹介
- 10:30 委託研究実施現場の成果発表
「地域ぐるみで新しい地球市民を育む」連携体制
地球っ子広場・甲陽園 コーディネーター 福岡 妙子
「今、心と生命を伝えるには」愛と価値観
地球っ子広場・五井 コーディネーター 照井 一子
- 11:00 連携先・協力者の声
地域の活性化は子育て支援から
甲陽園地区青年愛護協議会 前会長 北野井美枝子
地球っ子万歳
地球っ子広場・南国土佐 前コーディネーター 田中 満意
- 11:20 体験発表
国際交流の継続 ～多様な国籍の留学生と共に～
地球っ子広場・世田谷 コーディネーター 関 優子
- 11:45 さらになる発展
保護者と子育て支援者が集うワークショップの開催
地球っ子広場・世田谷 前コーディネーター 関 君江
- 12:15 第1部終了
- 休 憩

第2部

- 13:00 展示見学 プログラム体験ワークショップ
- 14:20 地球っ子広場での体験談発表
地球っ子広場・タカラヅカ コーディネーター 浅井 恵子
地球っ子広場・新潟 コーディネーター 井上 眞澄
地球っ子広場・おきなわ コーディネーター 亀島恵美子
地球っ子広場・ふじ コーディネーター 山下いづみ
- 14:45 今後の展望と協力依頼
- 14:55 まとめ
- 15:00 閉会

課題●地域ぐるみの子育て連携体制

⇒地域の子どもたちをみんなで育てて行こうとする意識の共有

⇒地域の方々との積極的な情報交換と協働・地域の活性化

「地域ぐるみで新しい地球市民を育む」

兵庫県西宮市 地球っ子広場・甲陽園

コーディネーター 福岡妙子



組織力と個人力が一つに結び合う

私たちは、子どもの居場所をこの3年間にのべ168回開催してまいりました。様々な活動プログラムを実施することができたのは、地域の皆様のご支援の賜物です。甲陽園地区には、小学校が1校、中学校が2校、高校が2校あり、そしてこの地区に絶大な組織力を持つ甲陽園地区青少年愛護協議会（以下青愛協と略）があります。この青愛協さんが、私たち地球っ子広場甲陽園の活動を全面的にバックアップしてくださっています。

青愛協の定例会には毎月一回、常時40名の方々が出席されます。会長さんを始め、民生委員、社協の方々、甲陽園地区の各自治会会長さん、学区内の小・中・高校の校長先生、教頭先生、そして幼稚園からも出席され、各小中高PTA会長、補導員、スポーツ21、ガールスカウトなどの団体の方々も出席されます。この場で様々な情報交換が行われる中、地球っ子広場も出席し、2カ月に一度発行するかわら版を配布させていただいております。

以前、七夕飾りを計画していたとき、定例会

で「どちらか笹をいただける所はないですか？」と何うと、ある委員の方が提供を申し出てくださり、さらにある自治会長さんが「では私も手伝いましょう」と、大きな笹竹を立てるなどの力仕事を買って出てくださいました。地域の子どもたちをみんなで育てていこうという素晴らしい方々がこうして集まっていらっしゃるのです。

地域の方々のご支援と連携の可能性

子どもの居場所の活動は、地域のご支援と連携によって、様々に展開しております。

- 西宮市内の施設利用における、使用料や予約の特典



- 各学校を通して、参加するお子さんへのプログラム配布が可能
- 青愛協だより「あんさんぶる」への、地球っ子広場の活動の掲載
- 西宮市の市民情報誌「宮っ子」に地球っ子の活動が大きく掲載、市民の方々に認知
- スペースフレンズ 2007 で宇宙飛行士の毛利衛さんが来られたとき、11名の地球っ子が参加。朝日新聞の地域紙あおぞらしんぶんに、記事掲載
- 畑をお借りしてお芋やお豆など野菜作りを地域の方々の協力を得て体験。“はるかのひまわり”の種植え付け

日本伝統文化の学び、伝承も重要です。子ども達が海外に出た時、一つでも自国の文化を話すことができればステキです。それは、子どもたちが「国際感覚にあふれ平和を愛する地球人に育った」ことにつながります。タオルでわらじ作り、また、正月のお飾り作りでは、藁打ちや縄ないも地域の方に教えていただいて体験しました。そのほか、夏祭り、うどん作り、ラジオ体操…。国際交流の時には、PTAの方々がスペインの国旗を作ってくださいました。地域の方々の協力のおかげで、毎回の地球っ子広場の多彩な活動を可能にしてくださっているのです。



メッセージ

3年前、地球っ子広場さんが始まったとき、今まで青少年愛護協議会でしてきたことと重なるものがあると感じ、以来共に手を取り合って活動しています。いろいろな行事を開催してきましたが「子どもたち一人ひとりにきちっと向き合うことが少ない」と思っていたときで、地球っ子においてそれを実践することができ、まさにタイムリーでした。兵庫県では約10年前から中学2年生全員を1週間、社会体験させる「トライやるウィーク」というプランがあります。子どもたちを地域の施設や商店などで受け入れ、体験をとおり地域から見守ろうという活動です。また西宮市には、NPO 団体がエコカードを作って、「子どもからエコ意識を高める！」活動が全市に行きわたっています。このように多くの団体と青愛協が連携を持ち、共に、地域を良くしようと努力しています。大きな花火をあげなくても一つ一つの積み重ねが地域の活性化につながっていくものと思います。



甲陽園地区青少年愛護協議会 前会長 北野井美枝子様

いのち 課題●心と生命を育む愛と価値観

⇒和気あいあいとした愛があふれる居場所の創造

⇒愛と心の豊かさは、すべてを受け入れ、共に響き合うなかから
伝わっていく

いのち 「今、心と生命を伝えるには」

千葉県 地球っ子広場・五井

コーディネーター 照井一子



心が満ち足りるプロセスが大切

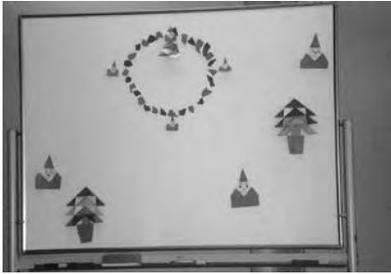
「おれが一番」が口癖で、歳の小さい順にやろうね、と決めても必ず「一番」を主張する子どもがいました。ところが最近、その口癖が消えてしまったのです。どうしてでしょうか。ある時、気が付きました。広場では、プログラムの最後に読み聞かせをしています。途中で、子どもたちが話しかけてきますが、そんな時「そうなの、すごいね」と子どもが満足するまで聞くことに徹します。なんでも受け入れて聞いているだけですが、子どもの心はきつと満足しているのだと思うのです。「認められて育った子は、自分を好きになることを学び、褒められて育った子どもは、感謝することを学ぶ」というアメリカ先住民の教えがあります。この居場所でも子どもたちは認められ、褒められて、だから「おれが一番」がいつのまにかなくなったのだと思います。

子どもたちは直感で愛を受け取る

「ぞうのせなか」*1というお話を、先日読み聞かせしました。

お父さん象が病気になります。家族に話すと、

ポッポちゃんという子ども象が、みんなの知らない所に行くの？ 私も連れて行って、と頼むのですが、それはできないよと諭されます。象は死期が近づくと、一頭で死に場所を探しに行くといいますが、夜中にガタンと音がしてお父さん象が出掛けていきました。ポッポちゃんはソツと後を追っていきます。するとお父さん象が川の所で、穴を掘って何かを埋めていました。2日目も3日目もお父さん象は、遠くに行つて穴を掘り、何かを埋めました。私は、子どもたちに何を埋めたのかな？ と、たずねました。ある子どもが「そこに何も埋めていない、心を埋めたよ」と言います。別の子どもも「そうそう、次の日も、動物たちや木や花に、元気でね、先に逝くけどみんな仲良くね、と言ったよね」と、続けます。子どもたちは、「3日目には、今までありがとう、と言って心をたくさん埋めたよ」と、いうのです。本はまだ3ページも残っていたから、私は、「みんな、まだ読んでもいないのになぜ書いてあることが分かるの？」とたずねますと、「だって、**ここ***2がそうだから。だから分かったの」と言ってくれたのです。その時、答えが出たのです。認められ、褒められることは大切なことです。でも**ここ**にはそれ以上のもの



のがある、愛があふれている場なのです。その愛がいつのまにか伝わり、子どもたちの心の中に息づいていたのです。

愛と豊かさを自分の中から引き出せる子どもに

自分の良いところを認め、人の素晴らしいところを認める。自分の国の良い所を見、ほかの国の良いところを見つめる。それが「国際感覚

にあふれ平和を愛する地球人を育てる」ことにつながります。この居場所では、絵を描き、折り紙をし、何をしていてもいい…子どもたちは自由に遊びます。遊びながら、子どもたちは自分の中から愛と心の豊かさを引き出していたのです。象さんが“心を埋めた”と分かる、素晴らしい心を。

*1 ぞうのせなか (秋本康著 講談社刊)

*2 ここ = 地球っ子広場・五井

メッセージ

ある女の子の死に心を痛め、子どもたちがやりたいことを存分にやって、輝いていられる場があったら、と思っていた矢先、地球っ子広場の存在を知って始めました。私は教育者の資格は持っていませんが、子育て経験を生かして、元気で明るい愛がいっぱいの場を皆さんと作ることができました。大人が力を合わせて、日本中に、世界中に、こうした居場所をたくさんつくったら、子どもたちも、そして大人も皆なが輝いていくと思います。そういうのが本物の恒久平和なのではないでしょうか。

照井一子コーディネーター

課題●孤立からの脱却 学校との強い連携

⇒子どもたちを大きく変えた「3つの約束」

⇒変化が変化を生み、地域・学校ぐるみの取り組みへ発展

「地球っ子万歳」

高知県 地球っ子広場・南国土佐
前コーディネーター 田中^{みつ}滿意



本物の子どもの居場所

私たちの地域には離婚家庭が多く、ある統計では子どものいる家庭の40パーセントが片親だそうです。私も子どもの居場所を始めてわかったのですが、中には、親がいつも家にいない、遅い帰り時間を待ってウロウロしている子どもがたくさんいるのです。これは何とかしなければと思いました。私の家は小さい二階屋ですが、一階を全部子どもたちに開放し、私が家にいる限り時間に関係なく子どもたちがやって来られるようにしました。日曜日の早朝、子どもが「もしもしおばちゃん今から行っていい？目が覚めたら親がおらんし、ご飯もまだ…」と電話してきます。放課後は「ただいま」「失礼します」ランドセルを背負って子どもが学校から帰ってきます。以前、私は静かな一人暮らしでしたが、降って湧いたようにまるで大家族のようになりました。

今、子どもたちは自分の家にいるように安心した顔をしています。みんな笑顔がステキです。難しい理屈や組織・制度ではなくて、愛と尊敬だけが必要なのです。温かい心で、何をしても信じ続けるだけ、愛し続けるだけ。子どもを無

条件の愛で包む居場所の運営は、やろうと思ったら、誰でもできるのです。愛があれば、どなたでもできることなのです。

子どもたちの魂の底に息づいている「3つの約束」

うちの広場では「3つの約束」*をみんなが守って、目を輝かせています。子どもたちは、これを守ってこんな人になろう、と思って、頑張っています。

始めの頃は障子も畳もボロボロになりました。小学校の先生方も、当初はちょっと遠くから見られるようでした。でも子どもたちが次第に変化し、集中力がでて姿勢がよくなり、ハッキリお答えができるようになってきて先生方も目を向けてくださるようになりました。今では、先生方は地球っ子の理念に賛同され、何か問題があるとすぐ連絡を取り合い、互いの情報交換も活発です。また保護者の方への連絡なども必要なときはすぐ対処してまいります。

「おれは世界で一番かわいそうな子だ」と言っていた男の子に、今はぬくもりが戻りました。子どもの笑顔は本当に素晴らしい。大好きです。



その笑顔が見たいから、私は今年で 80 歳になりますが、日々励んでおります。

学校、保護者の皆さん、地域の方々と、もっともっと声を掛け合い、手を取り合って子どもたちを育てていきたい——そのキッカケを作っ

たのは、田中のおばちゃんです、と、校長先生が喜んでくださいました。身近なところから発信していったら、子どもも大人もみんな変わっていくと思います。

*「3つのお約束」：本報告書 P18 を参照

メッセージ

「田中のおばちゃん」の所に行くことは、子どもたちにとって安らぎです。ひたすら子どもたちの立場に立って居場所を続けてこられ、休みの日には朝ごはんも昼ごはんも用意してくださる…本当に頭が下がります。今や、上級生が下級生に地球っ子の決まりを教えたりして、みんなわきまえて行動できるようになりました。家庭で十分なことをしてもらっていない子も、愛を与えられ、自分が大切な存在だと思えるようになってきました。

子どもの未来は本来輝かしいはずですが、今の時代、そうは行かないときもあるでしょう。でも「田中のおばちゃん」の所でした体験は、子どもたちにとって未来を生きる糧になると思います。教職員も良い感化を受けて取り組みをしていますが、もし私たちが子どもたちを大切にしていないと感じられるときがありましたら、どんどん苦言をお願いします。

連携を重ねている地域の小学校の
校長先生から頂いたお手紙（抜粋）

課題●意識の国際化・地域の国際化を図る

- ⇒留学生との触れ合いを通して芽生える、真の「国際感覚」
- ⇒言葉や文化の違いを超えた相互理解と地球人意識の啓発

「国際交流の継続 ～多様な国籍の留学生と共に～」

東京都 地球っ子広場・世田谷

コーディネーター 関 優子



私たちの居場所では国際性を大切にしています。特に地元に住む留学生の方たちに頻繁に活動に参加していただき、彼らの出身国の数は30カ国にもなります。国連国際平和デーにちなんだプログラムを行った時には、会場にたくさんの留学生の方が来場され、子どもたちや、保護者の方々、地元の皆さんと楽しく交流を行うことができています。

子どもたちは、留学生の方たちに対して、始めは「外国人」と思って消極的な態度でしたが、共に触れあって遊ぶなかで違いを超えて楽しく交流できるようになりました。留学生の方たちも、「ここに来ると、自分自身を外国人だと思わないでいられる、一人の人間として感じる事ができるのです」と言ってくれます。

小さいうちに身についた国際感覚は、大人に

なっても生きて糧となります。保護者の方たちからは「自分が子どもの時にこういう場があれば、私も参加したかった」とうれしい感想を頂きました。

居場所のプログラムでは、子どもたちがこうした留学生の方たちと触れ合い、直接言葉を交わす体験を重ねています。みんなグローバルファミリーなのだという、豊かな国際性と感性を子どもたちに育てていってほしいのです。

「国際感覚にあふれ平和を愛する地球人」が自然な形で成長し、実現していく場作りが、それぞれの地域で行われ、展開していったら素晴らしいと思います。

会場には、地球っ子広場・世田谷のプログラムに参加されている6人の留学生の方たちが来場。出身国の挨拶や自己紹介の方法を現地語で紹介し、会場の皆さんは教わったばかりの言葉で応えるなど楽しいやり取りが交されました。会場はあたかもミニ地球っ子広場となりました。その後、留学生の皆さんから、地球っ子広場に参加した感想などメッセージが語られました。

ビルさん（メキシコ出身、農業経済専攻）

地球っ子広場はとてもいい感じです。いつ行っても、みんなと遊べます。大人になっても心を一番大切にするような、そういう社会を作りたい。そのためには、子どもたちが言っている「3つのお約束」も大切だと思います。私が毎日心がけていることは、子どものように、ということ。つまり、スマイルです。ニコリ笑えば、心が開いて行きますよね。これからも地球っ子広場に参加します。



ベッツィーさん（コロンビア出身、グローバル社会研究）

この地球っ子広場は私にとって大切な場です。いつも参加させていただいてありがとうございます。

ムスタファさん（ヨルダン出身、歯科医学専攻）

きょうここに来られてうれしいです。ありがとうございます。このように子どもたちや未来のためにいつも努力されている皆さんに心から感謝しています。私も、世界中の人々が幸せになる日が来ることを待ち望んでいます。



朱^{しゅ}さん（中国出身、国際経済専攻）

3年前から地球っ子広場に参加して、とても嬉しくこの場を借りて感謝申し上げます。国際理解や交流のために私たちに何ができるのかが、分かるようになりました。また、子どもたちと遊んだり、楽しく過ごして、私自身が明るく元気になり、日々の生活を頑張っているという気になります。平和を創造するということは、一人ひとりの地道な努力によって身近なところから始まっていくと思います。これからも地球っ子広場を始め、様々な活動に参加して行きたいと思います。

ガブリエルさん（ナイジェリア出身、水産学専攻）写真左

私が妻（ローズさん）と日本に来たときは二人だけで知合いもいませんでしたし、言葉の問題もありましたが、地球っ子広場に参加してから、子どもたちと歌ったり遊んだり、素晴らしいコミュニケーションがあります。日本の皆さんの親切なおもてなしに感謝しています。ナイジェリアに帰ったら、地球っ子広場のようなプログラムを開催したいと思います。こういう活動を通じて世界がハッピーで愛がいっぱいになり、一つになるといいと思います。



ローズさん（ガブリエルさんの奥さま、ナイジェリア出身）写真右

日本の皆さんがフレンドリーで、とても親切にさせていただいて感謝しています。

各地の体験報告●地球っ子広場の試みと提案

保護者の不安を解消する 子育て相談会

東京都 地球っ子広場・世田谷
前コーディネーター 関 君江

昨年保護者会を実施したところ、今後もこのような会をやってもらいたいという要望があり、それにお応えする形で子育て相談会を開催しています(実施:年6回 平日の昼間2時間半)

《子育て相談会のポイント》

- ⇒核家族化・少子化の中で保護者の方たちが孤立しています。子育てについて話し合う場が必要です。
- ⇒話すことによって、思いを手放すことができ

るのです。気持ちが楽になっておおらかに子どもに対応できるようになります。



- ⇒社会の競争原理と、子どもたち一人ひとりの価値や成長をはっきり分けて考えましょう。
- ⇒人と同じである必要はなく、違って良いのです。子どもの良い面を見て伸ばしてあげることが大切です。
- ⇒子どもは天からの授かりものという概念を大切にしましょう。そして、子どもの生命そのものの尊さを感じられるようになること、そういう意識を自分の中に育てましょう。

お母さんの本音インタビュー

成果発表会には、地球っ子広場・世田谷の子育て相談会に出席されているお母さん方が来場。発表の壇上で、スタッフのインタビューに答えて下さいました。

《子育て相談会での話題》

- 親と子の関係について。褒め方・叱り方、過保護・過干渉にならないようにするにはどうしたらよいか。子どもの自立を妨げず、助けるには?
- 子どもと友達のかかわりについて。クラス替えや先生が交代して、心が不安定になるときの対応のし方。経験やコミュニケーションの不足を補うにはどうしたらよいか?
- 遊びについて。特にゲームやIT器機の導入について注意することは何か?
- 子どもを取り巻く環境の変化への対応は?核家族化・少子化によって、異年齢の子どもと遊ぶことが少ないことによる弊害など。地域力の必要性が大きい。



《子育て相談会への参加意義》

- アットホームな雰囲気、少人数なため、話しやすい。
- 一人で抱えていると大問題なのに、話しているうちに気が楽になり、子どもにもおおらかに接することができるようになる。
- 一人だと不安ばかり大きくなる。ここに来ると、先輩ママの経験談が聞けて、自分だけで悩んでいたことも良い方向に切り替えていくことができる。

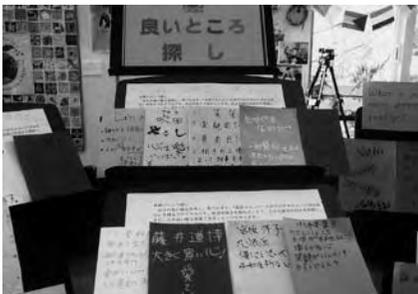
地元小学校との連携、 大学生の協力を得て

兵庫県 地球っ子広場・タカラヅカ
コーディネーター 浅井恵子

放課後子どもの居場所を市内の小学校で実施、毎回100名もの子どもたちが参加して、いつも元気なエネルギーに満ちています。小学校の理解と協力をいただき、時には校長先生、教頭先生が直接サポートして下さることもあります。先生方から、学校の中のものみんな子どもたちのものなのだから、自由に使っていいですよ、と言っただき、ありがたく使わせていただいています。また、学校内で開催していることにより、子どもたちは放課後の時間もそのまま学校で過ごすことができます。このことは、子どもたちにとって大きなメリットになり、安全面でも非常に安心です。そして、子どもたちと一緒に遊んでくれる心強い協力者が、関西学院大学の国際理解教育グループ「クラブジョーディ」*のメンバーです。国際理解に関する様々なプログラムを子どもたちに提供し、積極的に関わってくれています。

皆さんとの協力と連携によって支えられ、広場はとても良い形で展開しています。

*「クラブジョーディ」は、新しい国際理解プログラムを開発しては、地球っ子広場を訪ねてくれます。子どもたちもメンバーが来てくれるのを楽しみにしています。



地元学童クラブとの連携 日本文化との触れあいを通して

新潟県 地球っ子広場・新潟
コーディネーター 井上眞澄

地球っ子広場・新潟では、地元の方々やグループのご理解ご協力によって様々な試みが進んでいます。

一つは地元の学童保育「ひまわり」との連携です。学童の子どもたちと私たちの地球っ子広場の子どもたちが互いに見学をし合ったり、一緒に遊んだり、連携することによって活動の場を広げています。

もう一つは、私たちの広場で特に力を入れている、生け花やお茶など日本の文化を理解するプログラムです。生け花の先生は、男性の方で、子どもたちとお花を生けながら、「子どもは天才」と、一人ひとりの素晴らしさを称えてくださいます。また、お茶の先生は、年配の女性の先生ですが、いつでも和服姿で、一挙手一投足を通して日本の伝統を伝えてくださいます。講師の先生方は、地球っ子広場の理念を理解し、ボランティアとして来てくださるのです。時には道具や材料など大きな荷物を持って来て下さることもあります。

日本文化に息づく、人にも物にも感謝する調和の心は、真の国際人に必要な資質を育てることになると考えます。子どもたちが小さいときからそうした大切なことを、地元の協力者の方々のおかげで学んでいます。本当にありがたいと思います。



沖縄から世界に発信する 地球っ子広場

沖縄県 地球っ子広場・おきなわ

コーディネーター 亀島恵美子

月に一度地球っ子広場を開催しています。明るく楽しくがモットー、3つのお約束の読み上げも、自主的に、子どもたちの遊びの中で成立していきます。子どもたちは、地球っ子広場に参加していることをとても喜んでくれています。また地域の方々の関心も高く、大人の方のスタッフ参加も増えています。私はヒーリングケアスクールとリラクゼーションスペースを運営していますが、お客様や生徒さんもたくさんの方が地球っ子広場に共感して下さるのです。

私は地球っ子広場をこの沖縄から世界に発信したい、と願っています。そう思っていた矢先、先日素晴らしい協力者の方々が現れました。近所のネイルサロンに行ったとき、“世界中の子どもたちが幸せにのびのび育っていくように、そういう世の中になるように、私は地球っ子広場を伝えたい 世界中の子どもたちに会いに行きたい”と話していました。すると、そこのオーナーの方が、施術中にもかかわらず、マスクを外し、私の目を見て、“私のやりたかったことはそれです。ぜひ一緒にやりたい”と言って下さったのです。さらに、ほかのお客さんもたまたま話を聞いていて、協力を申し出て下さいました。その方は、すぐ近くにある教会のオーナーの黒人女性でした。通りを挟んで、私の店とネイルサロンと教会と、3ヶ所のオーナー同士が出会い、子どもたちのために一緒に活動してゆこう、と、熱い思いを語り合ったのです。地球っ子広場の素晴らしさを、子どもたちと共に、地域の方々と共に、沖縄から世界に発信してまいります。



地域の個性を生かして 国際化を図るには

静岡県 地球っ子広場・ふじ

コーディネーター 山下いづみ

先日、地元の方々に地球っ子広場に遊びに来てもらおうと、子どもたちと一緒にチラシを持って町に出掛けました。ある通りで、ブラジルの方がやっている店に入り、チラシを渡しました。すると、驚きと嬉しさの入り混じった顔で、“でも日本語ちゃんとしゃべれないし、目の形も違うし、髪の色も違うし…”と仰ぐのです。ぜひ来てくださいね、とお誘いすると、“でも、行ってもいいの?”と仰ぐのです。このような現状を知り、ショックでした。

私たちの住んでいる富士市には、4000人もの外国人が住んでいますが、身近に暮らしている、外国から来た人との交流は、実際にはまだ十分ではありません。地球っ子広場は、大人も子どもも自然体と一緒に遊ぼうね、というスペースです。外国人の方々にもどんどん声をかけて、地球っ子広場を通して、地域の国際化をはかっていくことの大切さを感じています。そして、一緒にやっていきたいと思っています。

私は、現在、富士市の市議会議員として仕事をしております。その立場に立って感じましたのは、やはり行政機関の役割は大きいということです。教育・福祉・建設・土木など生活の基盤に関わることをすべてを扱っているわけです。しかし、何かを相談したい、例えば、子どもの居場所づくりの相談をしたいというときに、どこに行ったらよいか分からないということがしばしばあります。私も以前そう感じました。でも、もし分からなくても、まずは行政の窓口に行ってみてください。そして、笑顔で、話しをしてみてください。あきらめずに何度もトライして頂きたいと思います。地域の個性を生かして、バランスよく整えていく方法が必ずあります。地域行政が笑顔になります。県も笑顔になります。国も笑顔になり、世界中の人が笑顔になる。地域の身近なところを突破口にして、そういう笑顔の流れを作ることができると思います。私たちも、地球っ子広場・ふじから発信していきますので、よろしくお願いいたします。

子どもの居場所 活動モデル

子どもたちが放課後を心豊かに安全に過ごせる環境を作り出しましょう。世代や国籍、文化などの違いを超えて和気あいあいと交流でき、楽しい時間を過ごせる、地域ぐるみで育む、「場作り」と「学び」の提案を致します。

- ◇ 開設・運営・管理マニュアル
- ◇ 子どもの居場所づくり 連携・協働のモデル
- ◇ 居場所の要となる教育観^{かなめ}
- ◇ 子ども居場所づくり 10カ条
- ◇ アクティビティ実践マニュアル
- ◇ 実践済み！おすすめアクティビティ集
- ◇ 活動参考資料集

子どもの居場所は、平成 19 年度より放課後プランの一環として実施されている、文部科学省が推進する「放課後子ども教室」。本編では子どもの居場所と称します。

子どもの居場所の開設・運営・管理マニュアル

開設にあたって

- 行動規範・ねらいの共有

3つのお約束

複数の人々が集まる場では、行動規範を持つことによって、自由さの中でも子ども自身がそれを心に留め、約束を守ろうと自ら取り組みます。居場所を始める時、最初に、子どもたちとルールを共有しておくことが、誰もが安心して過ごすためにたいへん重要なものとなります。次の3項目からなるルールは、自立、思いやり、自発性を育み、倫理観を向上させるのに特に有効です。

- ① 人にめいわくをかけない
- ② 自分のことは自分です
- ③ あまった力で、人の手助けをしよう

4つのねらい

子どもたちが安心して過ごす中で、新しい時代を担うにふさわしい地球規模での価値観と発想を、育てていくことを目指しています。例えば、下記のようにねらいを掲げることで、居場所の方向性を明確にすることができます（P25 参照）。

- ①自立
 - ②調和
 - ③地球理解
 - ④愛と平和
- 子どもの居場所 10 カ条の確認（P26～27 参照）
 - 放課後子ども教室に携わる市区町村などの行政窓口との相談
 - 協力スタッフの確保（参加者数に対応可能な人数）
 - 活動場所の確保（学校・公共施設、自宅など）

開催場所について

- 安全面に配慮し、会場周辺の環境をチェック
交通量、人通りがあり人の目があるか、歩道は整備されているかなどを考慮に入れるとよいでしょう。
 - 学校や公共の施設、民間のカルチャールーム、自宅などの開催が可能
 - 利用料金などを考慮し、継続実施可能である施設を選択
- 参加者の確認

参加者について

- 参加者の対象は基本的に小学校1年生から中学校3年生、及び保護者
- 幼児の参加の希望がある場合は、保護者と要相談
- 身体障害者や自閉症児の児童の参加の希望がある場合、可能な範囲内で対応をしましょう。参加を受け入れる際は、基本的には保護者の方の付き添いをお願いしてください。

保護者の方と十分に相談しながら、その上で対応することが大切です。

運営・管理について

- 実施予定などスケジュール管理
- 各地域の実情に応じた活動プログラムの企画
- 学校・家庭・地域間の連絡調整
- 広報活動（開催ポスター、チラシなどの作成配布など、活動の PR）
- 緊急連絡簿の整備
- 保険加入の有無（P20 安全管理の項を参照）
- 庶務（教材や必要な消耗品などの手配）
- 会計：出納管理など（領収書整理・保管を含む）
- 様々な地域ネットワークの構築
- 実情に応じた活動プログラムの企画・開発
- 教室実施のための準備・片付け

*運営に当たっては、予算や参加者の人数、年齢、開催場所に合わせた適切な内容の設定を前提としてください。

開催回数と開催時間について

- 継続実施可能な開催回数を検討しましょう。
月1～3回程度が、無理のない回数でしょう。市区町村からの予算措置を前提に、集団下校や学童保育の補完的役割として位置づける場合などは、回数を増やすこともあるでしょう。夏休み中は平日を中心に開催回数を増やすことができれば、保護者のニーズと合致するようです。数日に亘り連続開催をしてもよいでしょう。夏休みの自由研究へのサポートをプログラムに取り入れるとさらに充実したものとなります。
- 平日開催の場合は、低学年の授業が終わる時間に合わせて、おおよそ午後2時半から開場。高学年の授業が終わり、全員が集合した時点でプログラムを始めると自然な流れになります。
- 土日などの休日に開催する場合は、午前のみ、午後のみ、または午前午後両方など、ニーズに合わせた時間帯の開催が可能。
- 親子参加のプログラムは休日開催がよいでしょう。ただし、日曜、祝日は平日に比べて参加が少ない傾向にあります。
- 終了時間については、夏場は5時半、冬場は4時半など日没の時間に応じて変更することがよいでしょう。

保護者との連絡について

- 保護者への連絡事項は、子どもに口頭で伝えるのではなく、書面を用意し保護者の方へ確実に渡すようにしましょう。

協力・連携団体について

家庭、学校、地域の協力により、放課後の子どもたちの活動を見守ることが重要です。地域に密

着した活動は、地域活性化にも繋がります。そして、地域の皆様から信頼いただける場になってゆくことで、活動そのものが持続可能となります。

安全管理について

ボランティアにより運営されている場合は、そのことを保護者の方へご理解いただき、基本的に保護者、児童が自己責任の原則を了解の上で参加いただくよう、必ず説明してください。

□ 事前の参加者の把握

安全のため、不特定多数の子どもが自由に出入り可能な方式ではなく、参加登録申し込み制にしておく、参加するお子様の状況を把握するのによいでしょう。

参加登録申し込み時に「アレルギー、持病」などについては必ず調査してください。アレルギーは調理実習のメニューや食材を決める際に重要な情報となります。

□ ケガのとき

1. 事態発生
2. スタッフに直ちに報告
3. 救急車、タクシーどちらで運ぶかを決定
4. 保護者へ連絡
5. 救急車へ通報またはタクシーで病院へ
6. 残ったスタッフで活動の続行または中止の判断をし、残った子どもの安全を確保

□ 体調不良になったとき

1. 症状の確認
2. 検温 ※内服薬は、独自の判断では絶対に飲ませないこと
3. 保護者に連絡
4. 状況によっては、病院へ搬送または救急車を呼ぶこと

□ 賠償責任を負うおそれのある事故が発生したとき

1. 保険に加入している場合は、加入している保険の窓口へ速やかに電話連絡
2. 物の損壊については、事故の状況が把握できるよう現場写真や修理見積書をとっておいてください。

※示談交渉は加害者である被保険者が行ってください。なお、示談に際しては、事前に加入している保険会社と十分に相談。保険会社の承認を得ないで示談をしないよう、気をつけてください。

(スポーツ安全保険協会のホームページより抜粋)

□ 不審者対応について

- ・事前に不審者情報を交番などから収集

【警視庁管内不審者情報】

<http://www.keishicho.metro.tokyo.jp/seian/fushin/03minato.htm>

- ・教室開催時は入り口を施錠

□ 地震のとき

1. 身の安全の確保 (子どもの頭をかばうように)
2. 子どもを一カ所に集め、全員が揃っているか確認
3. ガスの元栓を締め電気のブレーカーを落とすこと

4. 揺れが完全に収まるまで外に出ないこと
 5. 火災が発生したら初期消火
 6. 火災が大きくなったらすぐ避難
 7. 「広域避難場所」へ集団で避難
 8. 保護者へ連絡 ※保護者への連絡はできる時点でなるべく早くしてください。
 9. 揺れが収まり火災が鎮火（または下火）したら戻ること
- 大雨・台風のとき
前日の天気予報で判断し、当日の午前、午後に上陸する場合は、中止。当日夕方以降に上陸の場合は、要検討
- 個人情報の取り扱いについて
- ・参加者の個人情報リスト（名前、住所、電話番号など）は必要最小限の作成
 - ・個人情報リストの持ち出し、貸出しは業務上必要があるスタッフ間に限定し、それ以外には絶対にしないこと
 - ・参加者 A から参加者 B の連絡先を教えて欲しいと要望がある場合、その場で案内をせず、個人の間でのやり取りをお願いするか、参加者 B にコーディネーターが連絡し許可を取ってから、参加者 A に案内すること
- ※ 個人情報保護法に準じます。
- 参加費・材料費の集金について
- ・集金袋を用意
 - ・集金をしたら、集金袋に「集金日」「内容」「金額」を記入し、受領印を押し、集金袋を子どもに返し、保護者に渡すように伝えましょう。
 - ・集金したお金の管理には十分に注意しましょう。
- スポーツ安全保険への加入について
参加者の保険加入も検討することをお勧めします。

スポーツ安全保険とは

【スポーツ安全保険協会ホームページ】

<http://www.sportsanzen.org/hoken/hoken1.html>

この保険は、財団法人スポーツ安全協会が契約者となり、加入手続きを行ったアマチュアのスポーツ活動、文化活動、ボランティア活動、地域活動、指導活動などを行う社会教育関係団体の構成員を被保険者として、東京海上日動火災保険（株）を幹事会社とする損保会社 10 社との間に、「傷害保険」、「賠償責任保険」を一括契約するものです。

さらに、これらの保険に協会で運営する「共済見舞金制度」を組み合わせた日本国内での事故を対象とした補償制度です。ただし、学校管理下における活動中の事故は除きます。

※宗教の一派、政治の一派、ビジネスの一派といったことは、この居場所には一切持ち込まないという原則を確認しておきましょう。

地域の協力者・協力団体と行う

「子どもの居場所づくり」連携・協働のモデル

本事業の実施研究に当たり、各地域において「子どもが安全に過ごせる場所を作り運営する」場合の、地域の協力者・協力団体との連携・協働の重要性が一段と明らかになっております。それは、こうした「子どもの居場所」が単に子どもたちが放課後を過ごす場であるということに止まらず、地域全体で子どもたちを共に育てようとする、大人たちの連携・協働の場にもなり得るからであり、また実際に、皆様の協力によって素晴らしい実績が挙がっているのです。各市町村役場関係部署を始め、地域の教育・子育て関係、各種 NPO 団体、商店街・地場産業など各分野の皆様と、子育てについての意識とより高い倫理観を共有しながらこうした事業の推進を図り、引いては地域の活性化にまでつなげてゆきたいものであります。

ここでは、子どもの居場所づくりは、地域から発信する一つの起業であると位置づけ、これまでの実践の成果を元に、地域社会との連携協力の体制を一つのモデルイメージとして右にまとめてみましたのでご活用ください。

行政

市区町村役場 関連窓口
(教育福祉部局など)
市区町村放課後子どもプラン運営委員会
教育委員会

地域の
青少年

学校など

学区内小学校 中学校
高校

地域の公的機関

図書館
コミュニティセンター・公民館など
警察 消防署 水道局
国際交流協会 ほか

地域内の他の
放課後子ども教室
放課後学級
児童館など

地域の各種団体
地域自治会
NGO・NPO 団体（朗読・音楽・
アートなども）
福祉団体（ボランティア活動）
老人会子育て団体 青年組織大
学（福祉・国際交流クラブなど）

地域の名人
地域の伝統文化伝承者
伝統文化推進団体 ほか

地域協力者の輪・ボランティアの方々の輪

- 実施に関するアドバイス
- 広報への協力
- プログラムへの協力
- 講習指導などの協力
- 各種イベントへの参加 ほか

地元商店会
地場産業組合
（農協 漁協ほか）
商工会議所ほか

子どもの居場所

子ども
コーディネーター
スタッフ
（指導員・安全管理員を含む）
保護者

居場所の^{かなめ}要となる教育観

人類を含めた地球生命体の持続可能性が危惧される昨今です。未来を担う青少年の健全育成を目指す今、地球規模での視野を持ち、「地球に住むすべての生命を尊ぶ視点に立つことが大切である」というグローバル社会に通用する、価値観・倫理観を持った人間を育成することが急務だと思われまます。それゆえに、子どもたちが放課後を心豊かに安全に安定して過ごすことに加えて、新しい時代を担うにふさわしい地球規模での視点と発想を育む教育を実践していくことをお勧めします。

子どもの居場所の発足にあたり、関係者で理念的な合意を形成しましょう。下記は、実践を通して実際に設定し、効果の見られた内容ですので、参考になさってください。

■教育理念

地球生命共同体の一員としての責任の自覚と使命の遂行

■教育目標

上記理念の実現に資する人格と能力の育成

■子ども観

子どもは、地球生命共同体の明日を担う尊い存在であり、肉体のみの存在ではなく、内に高次元な地球生命共同体の一員としての意識を併せ持つ存在である

■教育観

大人は、「子どもを教育しなければならない」と考えるが、これは一種の錯覚である

子どもの存在そのものの価値を尊敬し、本来、子どもが持っている能力と直観力をそのまま認め、全面的に受け入れさえすれば、子どもの素晴らしさが湧き出てくるのである。別の言葉で言えば、生命・意識というレベルにまで視点を深め、生きることの本質を、皆で学び合うこと、特に大人も子どもから純粋性、素直さ、無邪気さ、明るさ、英知などの素晴らしさを学び取り共に高め合うことが21世紀の教育には必要である

■教育価値

- 1 生命の尊厳
- 2 すべての違いの尊重
- 3 大自然への感謝と共生
- 4 精神と物質の調和

■行動規範

3つのお約束

- 1 人に迷惑をかけない
- 2 自分のことは自分でする
- 3 あまった力で、人の手助けをしよう

■教育実践

3つのお約束でいう「人」は、身近な家族・友人から人類すべてまで広がる

迷惑をかけてはいけない相手としての「人」、手助けする対象の「人」とは、「人類すべて」である、と自然に思える程に至れば、それは地球規模の意識に到達したということである

そのために、人種、民族、宗教、政治、世代、肉体の状況などすべての違いを超えて、心を開き、和気あいあいと交流し、遊びあい学び合う中で、信頼感を醸成し、体験的に学ぶことを教育実践の中心とする

4つのねらい

左記のような、子どもたちのありのままの^{いのち}生命を尊重しつつ、活動を通して広い視野と思いやりの心を自然に身につけることを目指して、わかりやすく4つのねらいに整理して掲げると、保護者や地域の皆様にも理解を得られやすく、有効です。

自立

自分のことは自分でしようという意欲を育てます

従来の国家、民族、宗教が権威と責任を持つ時代から、個の時代へと変わってゆかねばならない時が来ています。

個人が自己中心的に生きるということではなく、個が自立をし、人類の一員としての意識を持って、それぞれの責任と使命を果たしていく時です。

調和

コミュニケーションや協力を進んで実行する力を育てます

大自然は見事に調和し、見事に法則通り動いています。そのように、自分自身、友達、親とも、まずはコミュニケーションを進んで取り、協力関係を形成する力を養い、共生していく道を模索することが大切です。

地球理解

世界に開かれた視野と、地球への感謝の心を育てます

人類は、権力においても、富においても、名誉においても、また知識や技術や教育においても、それを持てる人、国、組織と、それを持たざる人、国、組織とに分かれてきました。

それらの二元対立や差別意識を超えて、異なった人種、民族、宗教、文化、伝統、習慣を認め合い、尊重し合い、その多様性をたたえ合い、喜び合える世界を築いていくことを目指します。

そしてこの地球上で生きとし生けるものへの感謝の心を持つことが共生への道です。

愛と平和

人のため、社会のため、平和のために役に立ちたいと願う心を育てます

個人の最大の使命は、それぞれが自己の中心に愛と調和と感謝の心を築き上げていくことにあります。

愛の中に尊敬があつてこそ、本物の教育です。そして、未来に向けて、平和の創造の担い手としての積極的な役割を果たしていく力が養われていくことでしょう。

子どもの居場所づくり 10カ条——地球っ子広場の実践理念から

子どもたちが放課後を過ごす場所として、どのような場作りを目指したらよいでしょうか。やって来る子どもたちを、どのような存在として捉えたらよいでしょうか。

子どもたちの心に寄り添うためには、どんな意識と行動が大切でしょうか。

本研究委託事業を推進していく中で、各地の実施場所のコーディネーターを始め、スタッフ全員が改めて確認をし、皆で共有しあった子どもの居場所作りの実践理念をご提案します。

子どもの居場所作りに携わるすべての皆様に、その意識と行動の基準として参考にさせていただきたい10カ条です。

1 子どもがイキイキとする場所であることを目指します

子どもの生命を萎縮いのちさせることなく生かし切りまします。子どもに自信を持たせます。

■そのために私たちが実行することは、子どもの存在そのものを敬い、尊ぶことです。

■子どもの生命を尊敬し、子どもと交流し、子どもから学ぶことです。

■子どもは尊敬されることによって生きるエネルギーを得ます。

■昔の人は、子どもの中に神様を見るところでいました。その精神です（特定の宗教の神様ということではなく、生命そのものの明るさや輝き、無邪気さ、直観などを指していたのです）。

2 喜びを子どもに与えます

喜びを感じることを語ります。明るく大らかでポジティブな言葉だけを使うようにします。良い言葉の響きには、真の喜びがあります。そして、一切の暗い話題を口にしません。一切の悪い言葉を使いません。

良い言葉は、誰にとっても心の栄養です。明るく考え、明るく語る習慣をつけましょう。

■皆で“良い言葉を使おうプロジェクト”に取り組むのもよいでしょう。

■良い言葉を与えることによって、子どもは喜びを体験します（大人も同様です）。

■子どもが一生懸命やっているときに、決してからかわないことをルールとします。

■身体とか名前のことなども、決してからかったりしないことをルールとします。

■人をいたぶるような行為や、けなすことによるギャグは、ユーモアでもなんでもない良くないことなのだを教えます。特に、しつこくそういうことをするのは良くないことだと、ハッキリと教えましょう。

3 友だちがすぐにできる場であることを目指します

友だちの喜びを一緒に喜びます。人の幸せを共に喜べるのは立派なことだと教えます。

■子どもと大人たちが一緒に喜びます。

■子どもと子どもと一緒に喜びます。

だから、みんなが友だちです。みんなが仲よしです。

4 ユーモアを大切にします

子どもの無邪気な笑いを大切にします。大らかで、高らか、清々しいユーモアには、生命をイキイキとさせるエネルギーがあります。

■「笑い体操」「ハイタッチ」「拍手」などを居場所運営に積極的に取り入れましょう。

■ツッコミによる笑い、人の弱点を取り上げた笑いを良しとしません。厳しく注意します。また、無闇に子どもに特定のレッテルを貼る

ようなことは避けましょう。

5 「生命の尊厳」に価値観をおき、「存在そのものが尊重される安心感」を与えます

- 今のままで良いのだよ、という安心感を子どもに与えます。子どもの心から恐怖、不安、心配が払拭され、「ありのままで良いのだよ」という安心感がもたらされます。
- 良い子だから偉いとか、成績が優秀だから偉いなどという価値観はとりません。
- すべての子どもは、そのままで尊いのです。そのまま独自の使命があるのです。

6 「いつでもいらっしやい」という安心感を与えましょう

- 困ったときには、いつでもいらっしやいという安心感を子どもに与えます。もちろんご両親や先生に相談するのはいいけれど、居場所のおじちゃん、おばちゃん、おにいちゃん、おねえちゃんたちはいつでも親身に相談に乗ってくれます。この安心感が子どもの生命を生かします。
- 「よく来たね。待っていたよ」「またいらっしやい」というやり取りを通して、子ども自身が自分の存在を確認できるのです。

7 挨拶をしましょう

- 気持ちの良い挨拶は、みんなの心を明るくします。進んで明るい言葉かけをしましょう。「おはようございます」「こんにちは」「ありがとうございます」「お世話になります」。そして、自分が悪かったと思ったら、いち早く「ごめんなさい」と爽やかに。
- 赦しの言葉を進んで使いましょ。英語の No Problem や Don't Mind に当たる言葉が日本語には少なく、使われることもあまりないようです。「いいんですよ」「大丈夫だから」

「人間だもの」「良い経験をしたね」「雨降って地固まる」「人間万事塞翁が馬」「すんだことはよし」「よかよか」といった赦しの言葉は、子どもの心を緊張から解き放ってくれます。

8 テストがありません。順位もなく、序列もなく上下もありません

- 礼儀正しくお互いの生命を尊敬し合うところには、評価のための競争がありません。
- 子どもたちは、学校ではもちろん、家庭や地域でも大人からの評価の目を意識して生活しています。居場所では、子どもへの評価が一切ありません。テストも決して行いません。大人のピリピリとした雰囲気があったくないため、子どもたちは心からの安心感を得ることができます。
- 真の遊びとはいうのは勝ち負けのあるゲームとは違います。子どもの生命力を阻害する要素をすべて取り除こうという趣旨です。勝負事を過度に導入したことで新たな序列や優劣の感覚が発生しますともったいないこととなります。愛情、生命への信頼をより強め、誰もががのびのびとできる場作りを目指しましょう。

9 心休まる、なつかしい場所

- ネガティブな言葉も活動もないので、子どもはいつ行っても安心感を得ることができます。楽しく、明るく、大らかで、なつかしい雰囲気だけが満ちているので、子どもはこれまでになく心休まるのです。

10 子どもたちが自らの夢を描き、実現する力を養います

- 自分と世界の未来を描くためには、新しい価値観が必要です。新しい時代を生きるための高次元な価値観を、子どもたちに示し、また皆で共有します。

ある日の子どもの居場所 ～一日の流れ～

準備から、子どもたちが集まり帰るまでの一連の流れををご紹介します。
時間帯は、放課後に実施した場合となっています。休日の場合や会場の都合、場所によって臨機応変に応用していただくようご配慮ください。

◆ 内容詳細 ◆

時 間	指導者の活動	子どもの活動	備考（配慮することなど）
午後 3 時	<ul style="list-style-type: none"> ○活動準備・打ち合わせ（役割分担・連絡事項など） ○やって来た子どもたちに挨拶をしながら、準備を整える 	<ul style="list-style-type: none"> ○順に、子どもたちがやって来る ○出席簿にスタンプを押す ○自由遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ○「こんにちは」の挨拶と共に、「待っていたよ」、「よく来たね」という気持ちを表現する ○自由遊びの片付けを促し、集まるよう声かけをする
午後 3 時 30 分	オープニング <ul style="list-style-type: none"> ○全体で元気に挨拶 ○今日の予定を伝える ○3 つのお約束（P24 参照） 	<ul style="list-style-type: none"> ○自由遊びに区切りをつけて、全員集合、元気に挨拶 	3 つのお約束 <ol style="list-style-type: none"> 1 人に迷惑をかけない 2 自分のことは自分でする 3 あまった力で、人の手助けをしよう
午後 3 時 45 分	今日の主な活動 【国連国際平和デーによせて】		
	<ul style="list-style-type: none"> ○国連国際平和デーについて紹介 ○「かわいそうなぞう」のお話読み聞かせ ○「かわいそうなぞう」の感想を画用紙に表現してもらうために、画用紙を配布 ○描く作業のサポート 	<ul style="list-style-type: none"> ○本の読み聞かせに耳を傾ける ○「かわいそうなぞう」*のお話の感想を画用紙に描く <p>*「かわいそうなぞう」金の星社</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○9月21日は、国際連合が定めた「国際平和デー」。すべての国、すべての人々が共通の理想である平和を願い、推進・実践する日であることを説明。 ○読み聞かせの途中で、子どもから感想の声があがった時は、その話に最後まで耳を傾ける ○自由に描けるように、配慮する ○絵に描く作業がスムーズに進まない場合には、絵の参考例をいくつか紹介するなどして、サポートする
午後 5 時	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちが描いた絵の発表の場を作る ○感想も付け加えるよう促す 	<ul style="list-style-type: none"> ○描いた絵を発表し、感想をいう ○ほかの子どもたちが描いた絵を鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> ○それぞれの絵の個性や表現の仕方を尊重する。絵に上手下手などの優劣を決してつけない ○それぞれの良さを認める
午後 5 時 20 分	エンディング <ul style="list-style-type: none"> ○片付け ○「さようなら」一人ひとりに愛情を込めて挨拶 ○お迎えの保護者の方々にご挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ○片付けをする ○挨拶 ○お迎えのある場合は待つ 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの忘れ物がないか配慮する ○お迎えの有無をしっかりと確認しておく ○「この次も元気で来てね!」「待っているよ」などのメッセージを伝える
午後 5 時 30 分	<ul style="list-style-type: none"> ○スタッフ同士の感想・意見交換 ○戸締り、解散 		

アクティビティ実践マニュアル

これまで実践してきたアクティビティのほんの一部ですが、どちらの子どもの居場所でも、実際に取り組むことができるよう、「実践マニュアル」として掲載致します。本事業での取り組みの特徴は、「国際感覚にあふれ平和を愛する地球人を育てる」という趣旨を踏まえていることです。手順や必要な材料、資料などを記載し、実際に取り組まれる際に、イメージできるよう、具体的に記してありますので、ぜひご活用下さい。各々の状況に即した様々なアイデアを盛り込んで、実践されることをおすすめします。

お子様ランチはどこの国

【ねらい】	私たちが日常食べている食材がどこからやってきているのかを知る。また、お子様ランチを作っている食材の輸入国を調べることで、世界とのつながりを実感する。お皿に立てた国旗を確認することでその国に対して関心を持つ。
【準備するもの】	紙粘土、画用紙、色鉛筆、はさみ、のり、紙皿、つまようじ
【参考資料】	世界地図、社会科教科書
【手順】	<ol style="list-style-type: none"> ① 紙粘土で、各々が好きなメニューのお子さまランチを作る。 ② 作ったお子様ランチの食材が、どこの国でできているものかを考えてみる。 ③ 「お米→日本から」など、まずは推測して紙に書いてみる。 ④ 次回来る時までに、自分が作った食材の輸入先をスーパーなどで調べてくる。 ⑤ 調べたことを持ち寄って、それぞれの食材がどこから来ているのかを確認する。 ⑥ 世界地図で、国の場所と国旗を調べる。 ⑦ 輸入先の国旗を描いて、自作のお子さまランチに飾る。
【活動ポイント】	お子さまランチの絵を描くことから始めても良い。関心を持って、取り組んでいけることがポイント。
【応用】	スーパーで実際に食品の表記を見てみるのが、体験的でお薦めの手法ですが、できない場合には、あらかじめ調べた資料を用意しておく。
【感想・エピソード】	私たちが、普段何気なく食べている食材は、輸入されたものが多く、遠い国からどれほどの手を通して届けられるかということを知った。お皿の上では、きちんと調和した国際交流がされていて（お腹の中でも）、世界とのつながりを再認識した。子どもたちは、自分の好きなお子さまランチを作ることが、たいへん楽しそうだった。



平和の木をつくろう

【ねらい】	優しい言葉、元気になる言葉、感謝の言葉などの平和を感じる言葉を書くことで、平和な心を育む。そして言葉のエネルギーを実感する。 また、国名ビンゴゲームをすることで、外国の名前に触れ、関心を持つきっかけとする。
【準備するもの】	平和の木（色画用紙で制作）、りんご型の短冊（かわいい形の付箋も良い）、カラーペン、国名ビンゴシート（制作）、ビンゴゲームに必要な小物
【参考資料】	世界地図
【手順】	① グループごとに平和の木と、国名が書かれたビンゴシートを用意する。 ② ビンゴゲームの目的は、まだ実のなっていない木に平和の言葉を実らせることで、グループ独自の「平和の木」を完成していくという主旨を説明する。 ③ 2～3名のグループに分かれて国名ビンゴゲームをする(人数によって決める)。 ④ ビンゴになるごとに、木に、優しい言葉、元気になる言葉、感謝の言葉などをグループ全員がりんご型の短冊に一枚ずつ書き、「平和の木」に貼っていく。 ⑤ 「平和の木」が平和の言葉でいっぱいになるまでビンゴゲームを続け、それぞれのグループが「平和の木」を完成させる。 ⑥ 完成したところで、それぞれのグループから、「平和の木」にどんな言葉の「実」がなっているのか、発表してもらう。
【活動ポイント】	ビンゴゲームは、楽しくワクワクと「平和の木」を制作するツールなので、勝ち負けが目的でないことをリードする側がしっかりと認識しておくことが肝要。「平和の言葉」の例をいくつか示しておく、スムーズになる場合がある。
【応用】	ビンゴゲームは国名でなくても、既成のビンゴシートを利用してよい。人数が少ない場合、グループでなく、個人ごとに行う。ゲーム感覚に楽しく制作する目的であれば、ボール投げなどビンゴゲーム以外のゲームを取り入れて行う工夫もできる。
【感想・エピソード】	平和を感じる言葉を書くのに時間の要する子どももいましたが、みんなで「どんな言葉が平和を感じるかな？」と思いついた言葉を自由に言ってみる時間を持ったら、次第にスムーズに言葉が浮かんでくるようになった。「ありがとう」「笑顔」「ぽかぽか」「ワクワク」「明るい」「思いやり」など、驚くほどたくさんの言葉の実ができた。



花と緑の地球ポット

【ねらい】	<p>花の美しさや生命の輝き<small>いのち</small>を活かす生け方を工夫する。花を生ける時間を持ち、花との対話によって、何かを感じることを経験する。</p> <p>また、出来具合に、優劣、上手下手はなく、自分の好みであれば、それは価値あるものになり、自由に表現することができる。</p> <p>ペットボトルを花瓶として再利用することで、物を大切にする心や創意工夫のおもしろさを体験する。</p>
【準備するもの】	<p>ペットボトル（大きいサイズのもの）、生花、カラーテープ、画用紙、油性カラーペン、シールなど</p>
【参考資料】	<p>野草や花に関する本</p>
【手順】	<ol style="list-style-type: none"> ① ペットボトルを花瓶として再利用する。適当な長さに切り取り、切り口にカラーテープを貼っておく（あらかじめ、準備しておいても良い）。 ② 花を生ける前に、「どんな地球に住みたい？」と質問し、子どもたちから、自由にイメージを引き出す。 ③ 自分たちの住んでみたい地球のイメージを画用紙に描く。 ④ 描いた絵を切り取って、ペットボトルの鉢に貼り付ける。 ⑤ 準備した花などの植物の名前と個性を紹介する。 ⑥ ペットボトルを地球に見立てて、そこに花や葉を思い思いに生ける。 水に生けても良いし、土植えにしても良い。
【活動ポイント】	<p>オリジナルの世界を創り上げることができ、みんなと同じでない、自分が感じた世界、イメージを大切にできる。仕上がりに優劣や上手、下手はない。「違い」はあっても「差」はないということを実感する。そして、その実感から、それぞれの個性の輝きを確認し、幸せ、喜びを感じる。</p>
【応用】	<p>ペットボトルを包装紙で包んだり、リボンを飾ったりするなどして、いろいろ工夫することができる。また、花は贈り物にできるので、完成した作品にカードを添えるなどして、感謝の心を表現することもできる。</p>
【感想・エピソード】	<p>「どんな地球に住んでみたい？」という質問に、「ここにいるみんなと仲良く一緒に住みたい！」という声も。「緑いっぱいの地球になりますように」というメッセージも見られた。</p>



いのち 廃材に生命を吹き込もう

- 【ねらい】** 完成したおもちゃに恵まれている昨今、子どもたちの豊かな創造力で、自ら生み出すひと時を楽しむ。
いらなくなった廃材の再利用を考えるきっかけにし、有限な地球の資源を大切に扱っていくことへの意識を育てる。
木と語り、木との触れ合いを楽しみながら、自然とのつながりを実感していく。
- 【準備するもの】** 廃材、木工用ボンド、のこぎり、作品参考資料、ピースやモール、マーカーなどの飾りにできるもの
- 【内容】**
- ① 室内であれば川のせせらぎや小鳥のさえずりなどの静かな音楽をバックミュージックにする。
 - ② 廃材がどこから来たかを説明。
 - ③ 「木に聞くと、どうやって使ってあげればいいのか、アイディアが湧いてきますよ」と木との対話の時間も味わってみるように促す。
 - ④ 木工の作品集を参考にしてもよい。
- 【活動ポイント】** 急がせることのないよう、できるだけゆっくりとした時間を取っておく。
音楽などの雰囲気作りにも配慮すると木とコミュニケーションの取りやすい空間ができる。
- 【応用】** 牛乳パックや包装紙、針金ハンガー、ペットボトルなどでも、アイディアを活かして、新たなものを作ることが可能である。例えば、梱包材の「まゆ玉」を使った再利用。まゆ玉と針金を使ったネックレスや、リース、人形などができる。
素晴らしい子どもの創造力を引き出せる。また、ダンボールを使って家作りなども楽しい。
- 【感想・エピソード】** 制作前に、体を使って走ったりと自由に遊ぶ時間を作ったのがよかった。「ゆっくりと作ってくださいね。時間内に仕上がらなくてもいいのですよ。帰ってお家の人と一緒に続きをやってもいいですからね」と声をかけると、子どもたちはあせらず、ゆっくりと思い思いにイメージを膨らませて、集中していた。



心のスクリーン ～朗読劇を通して～

朗読劇には、様々なお話が使われますが、今回は、地球っ子広場のスタッフが制作した『ぼよんの旅』のシナリオを例に挙げて、ご紹介します。また、この物語は、環境をテーマにした題材としても作られているので、「地球理解」を育むことにもなります。

【ねらい】	水の循環という、環境をテーマにした内容から地球環境への理解を深める。作られた映像や絵を与えるのではなく、朗読劇を通して、子どもたちの中にある想像力を引き出し、心と頭を使って、生き生きとした映像を自ら作り出すことを手助けする。 自分の中にあるイメージを好きなだけ、好きなように膨らませて、お話を聴くことができ、豊かな想像力と豊かな心の世界を育む。
【準備するもの】	朗読用に作成したシナリオ『ぼよんの旅』、一枚のイメージ絵（物語の内容に応じてイメージ絵を用いるか判断する）、三人の配役、画用紙、色ペン、色鉛筆など
【参考資料】	朗読劇『ぼよんの旅』（地球っ子広場 制作） *朗読劇『ぼよんの旅』のシナリオについては、事務局までお問い合わせください。
【手順】	① 子どもたちが集まって座ったところで、下記のように朗読劇の特長を紹介。 「今から『ぼよんの旅』を読みますが、このお話には、1枚しか絵がありません。それに、主人公のぼよんがこの絵には描かれていません。でも、みんなの心の中にスクリーンがあります。皆の心と頭の中にスイッチを入れると、お話を聞きながら、たくさんの絵が浮かんできます。テレビのように次から次へと見えてきます。どうぞ自分の中のイメージを大きく膨らませて聞いてくださいね」 ② 「語り」、「ぼよん」、「葉っぱ・雨つぶ・岩・雲」の配役に分かれて、三人で朗読する。 ③ 朗読後、「最初にぼよんはどこへ行きましたか？」と子どもたちに質問を投げかけ、「ぼよん」の旅路を復習する。子どもたちに答えてもらう。 ④ お話を聞いている間に、子どもたちの中にどんな「ぼよん」が表れたか問いかけ、絵にはいない主人公の「ぼよん」を絵に描いてもらう。この時に、みんなそれぞれ違った「ぼよん」でいいということを強調する。 ⑤ この「ぼよん」は、実は自然界の水の循環を表していることをお話しする。
【活動ポイント】	朗読劇とは、声に出して読み上げること、特に、詩歌や文章などをその内容をくみとり、感情をこめて読み上げること。従って、声のトーンや発声の仕方、感情の込め方などを工夫して読むことにより、生き生きとした物語が、子どもたちに伝わり、イメージしやすくなる。そういった読み方をするのがポイントでもある。
【応用】	朗読に適する既成の絵本やシナリオを使用することもできる。朗読劇を子どもたちが取り組んでみることに発展させてもよい。劇の楽しさを知るきっかけにもなる上、一体感を生むことにもなる。また、登場人物の立場に立ってみることで、相手の気持ちを汲み取ることを学ぶ。

即興劇☆プレイバックシアター☆

プレイバック・シアターを簡単な言葉で表現すると「わかちあいの場」「癒しの劇場」「贈り物の劇場」といえます。その場にいる一人が語り手となり、自分のストーリー（自分自身の本当にあった出来事など）を語ります。語られたストーリーは役者（アクター）によって、即興の劇で表現されます。劇場ではありませんが、とてもドラマチックで、決して治療法ではありませんが、とても治療力があります。ゲームでもないけれど、とても愉快です。そして、洞察力、健全な人間関係、そして新たな創造性への有力な手がかりになる手法です。

【参考図書紹介】 プレイバックシアター入門 著書：宗像 佳代 出版：明石書店

【感想・エピソード】

にぎやかにおしゃべりしていた子どもたちが、朗読が始まるとシーンと聞き入っていた。朗読後、「ボヨン」のイメージを絵にする作業は、どの子どもたちも熱心にそしてそれぞれが自由な発想で描いていた。



● 実践済み！

おすすめアクティビティ集

本事業のテーマであります「国際感覚にあふれ平和を愛する地球人を育てる」に関連したアクティビティを、ご紹介致します。以下の一覧に掲載されているアクティビティは、どれも当財団が推進している各地の子どもの居場所（地球っ子広場）にて実践されたもので、具体的に報告のあった内容です。それぞれの「アクティビティ」について、「ねらい・目的」「使用した教材・参考図書」を併記していますので、実際のプログラム作りの参考材料としてご活用ください。

実施に向けて、詳細をご希望の場合は、可能な範囲で提供いたします。

	アクティビティ	ねらい・目的	使用した教材・参考図書
1	国連国際平和デー 1 留学生による母国紹介 2 子どもたちによる日本の遊び紹介 3 輪になってピースメッセージ	1 遊びに来てくれた留学生の国とその特徴について知る。日本とは違う習慣や文化をその国の人から直接話を聞くことにより、より理解が深まる 2 相手の国について教えてもらったので、お礼の気持ちをこめて海外の人に自分たちの遊び、文化を伝える。日本の遊びを改めて見直す機会でもある。子どもたちが教える立場になるので、リーダーシップが身につく 3 国連国際平和デーをきっかけにして、たくさんの海外の留学生と交流しながら、共に世界に意識を向け、平和を願う気持ちを養う	
2	国連国際平和デー	国連を知ることで平和について考える	みんなの国連（国際連合広報センター）
3	国連国際平和デー 「かわいそうなぞう」を読み聞かせ、絵や感想を描く (p28 参照)	今ここにいる幸せを感じ、生命の大切さを学ぶ 感じたことを、画用紙に自由に描く力を養う	大型絵本「かわいそうなぞう」 金の星社

	アクティビティ	ねらい・目的	使用した教材・参考図書
4	国連国際平和デー ピースメッセージ	国連国際平和デーに寄せて平和を願うメッセージをみんなで書く 平和を願う心を形に表現する	世界の国々の現地語による平和の言葉（紙にプリント）
5	国連のことを知り、 そこで働いている 方のお話を聞く	世界の国々について知り、いのちの大切さを学ぶ 意識を集中して、お話を聞く	
6	国際交流 (スリランカ)	世界の国々に関心を持つ 国際性を養う 生活、文化、習慣などの違いを知り、互いを尊重し合う心を育む	現地語の挨拶の言葉を拡大コピーした紙
7	イタリアの言葉で、「ありがとう」「こんにちは」などを遊びの中に入れ、ゲームをしながらイタリア語を感じる	言葉を通して、交流し合う楽しさを味わう 世界の国々に関心を持つ 国際性を養う	・模造紙にイタリア語の挨拶を書く ・紙芝居「ピノキオ」 地図を用意し、イタリアに印を付ける
8	インドに親しむ	インド舞踊を見て、楽しむインドの衣装を見て、ふれる。お化粧を見る インド民話を聞く 他国の文化に親しみ、世界の国々に関心を持つ 生活、文化、習慣などの違いを知り、互いを尊重し合う心を育む	・インド民話「ヒマラヤのふえ」 A・ラマチャンドラレ作 福音館書店 ・インド舞踊（カセット、衣装、テープ）
9	インドについて知ろう	「インド」の国について知る 世界の国々に関心を持つ 国際性を養う	・インドに関する資料
10	国際交流（インド）	世界の国々に関心を持つ 国際性を養う 生活、文化、習慣などの違いを知り、互いを尊重し合う心を育む	

	アクティビティ	ねらい・目的	使用した教材・参考図書
11	中国人になろう	民族衣装を着た中国の方とのふれあい、中国語の挨拶（日本語にない発音）、手遊びの体験を通して中国の文化をそれぞれが感じ取っていく	・世界地図 ・独自に作成した中国の国旗、中国語の挨拶を書いた模造紙大の資料 ・「ゆうかんなアジク」（中国満族の民話）
12	中国のおはなし	世界の国々に関心を持つ 異なる民族、生活、文化、習慣などを知り、尊重する心を育む 国際理解を深める	雲南の少数民族写真集（雲南科技出版社）、東巴常用字辞典（徳宏民族出版社）、体験雲南（雲南大学出版社）、世界地図
13	中国語とアゼルバイジャン語で「3つのお約束」	各国語の文章を声に出して言うことで、その国の言葉の感じをよりつかむことができる	
14	フランスのお城とドレス作り	フランス語でメルシー（ありがとう）の言葉を交わし、楽しくドレスを作る。他国の文化に親しみ、世界の国々に関心を持つ	
15	フランスってどんな国？	世界の国々に関心を持つ 生活、文化、習慣などの違いを知り、国際理解を深める	・ババール「ぞうの話の本」、ゆかいな虫の仲間たちカード、地球儀、CoCo Panacheの本、Antoon kings Leon le Bourdon
16	ジャマイカの生活の話を聞く	ジャマイカでの生活経験者から外国人との接し方、また会話力をどのように身につけたかを知る	プリント「一つの愛」（歌）
17	ジャマイカ料理を作る	料理作りを通してジャマイカの文化を知る	
18	「ガーナ共和国」を知ろう	「ガーナ」という国について、知る	現地で生活してきた人の体験を直接聞き、日本との違いを知り、世界の国々に興味を持つ

	アクティビティ	ねらい・目的	使用した教材・参考図書
19	英語で遊ぼう	英語の絵本、音楽などを通じて英語に親しみ、慣れる（国際感覚を養う1つの手段となるように）	<ul style="list-style-type: none"> ・ The Wonderful Wizard of Oz, Alice's Adventures in Wonderland, ・ What time Mr.Wolf?, ・ Letter Hunt, ・ ドラえもんのはじめてのえいかいわ ・ English Picture Dictionary ・ Mother goose CD
20	世界の挨拶	世界各国の挨拶の言葉や交わり方を知って、世界の人々とのつながりのきっかけを作る	
21	世界の食を知ろう	食を通して、日本や世界の国々の現実を知り、国際意識を高める	
22	世界のお話	世界中の子どもたちは、自分たちと同じように楽しく遊んでいることを知る	<ul style="list-style-type: none"> ・ アジア太平洋写真カタログ「子どもの遊び」ユネスコ・アジア文化センター出版・「木」小学館・「子どもに教える今日はどんな日？」PHP 研究所
23	ハロウィン	ほかの国のお祭りの体験 ほかの国の文化への理解を深める	「子どもに教える今日はどんな日？」PHP 研究所
24	クリスマスについて学ぶ	ほかの国のお祭りの体験 ほかの国の文化への理解を深める	
25	クリスマス飾りを作る	世界の植物のことを知り、植物の大切さに感謝して「リース」を作る 自然の素材（木の実やハーブ）で飾りを作ることにより、自然や季節をより身近に感じることができる	
26	子ども茶道	「和」の心を味わってみる 日本の伝統文化体験	

	アクティビティ	ねらい・目的	使用した教材・参考図書
27	お月見	お月見の行事を体験することにより、月に興味を持ち、豊かな心情を育てる	「お月見について」「月とうさぎ」阪急電車沿線情報誌 TOKK（宝塚、大阪、京都、神戸）より
28	タオルでぞうり作り	身近にある材料を用い、手や足を使って物を作る 色、形、大きさなど工夫しながら根気強く作る体験は、注意力、創造性、根気などを養う 日本の伝統文化・手仕事に触れ、体験することは、国際人としての素養を育む その上に国際的な生活、文化、伝統の違いなどの知識と視野を広げる	・NHK「おしゃれ工房」 ・作り方説明書
29	凧作り&凧揚げ大会	日本の伝統を体験を通して知り、大切にすることは、ほかの文化を尊重することにつながる 外国の人と接する時に、自国について話せるような国際人としての素養を育む 自然の素材（竹ひご、和紙、凧糸など）で、「凧」を作り、風と遊ぶことで、季節を感じ、自然に感謝する心を育む 伝統的な季節行事に参加することで、先人の知恵と日本の良さを体感する	
30	地域の秋祭りに参加	地域の人たちとの交流を深める	
31	そばまき	そばの種を蒔く体験学習	
32	そば刈り	8月に蒔いた種の成長と収穫の喜びを感じる	

	アクティビティ	ねらい・目的	使用した教材・参考図書
33	しめ縄作り (わら打ち、縄ない)	<p>日本の伝統を体験を通して知り、大切にすることは、ほかの文化を尊重することにつながる 外国の人と接する時に、自国について話せるような国際人としての素養を育む</p> <p>自然の素材（わら、ウラジロ、松の葉、木の実など）で、「しめ縄」をすることで、季節を感じ、自然に感謝する心を育む</p> <p>昔からの季節行事に参加することで、先人の知恵と日本の良さを体感する</p>	
34	稲刈りとはざかけ (天日干し)	<p>自分たちが毎日食べているお米がどのように作られているか実際に体験する</p> <p>春に田植えをした苗が稲に成長したことを確認する</p>	
35	稲の脱穀	<p>田植え、稲刈り、脱穀を継続して体験し、自分たちが毎日食べているお米がどのように作られているかを知る 収穫の喜びを感じる。</p>	
36	お花畑& 焼き芋大会	<p>地域の行事に参加することで、地域社会の一員であることを自覚すると共に、地域の人々とコミュニケーションを取る力を育む</p> <p>自然の中で木の実を取ったり、木に登ったり、自由に遊ぶことで、季節を感じ、地球環境をより理解し、感謝する心を育む</p> <p>普段できない焚き火、大きな火を扱うことで、火に対する理解を深め、情緒を安定させる</p> <p>昔からの季節の行事（焚き火・焼き芋）に参加することで、先人の知恵と日本の良さを体感する</p>	

	アクティビティ	ねらい・目的	使用した教材・参考図書
37	エコハンガー作り	不要品として捨てられてしまう物を、少しの手間とアイデアで便利なものへ変身させる体験 ものを生かす知恵と“もったいない”精神を養う	クリーニングした衣料品に付いてくる針金ハンガー、カラーリボン
38	ペットボトルの花びん作りと生花(p31 参照)	お花の美しさを知り、それぞれの花を生かすように葉や花びんとの調和も考えて自由表現で生ける 子どもの心に優しさを育む	ペットボトル 花
39	天然のみつろうでキャンドル作り	天然のみつろうでキャンドルを作る体験を通して、昔からの暮らしの明かりとして身近に感じ、自国の伝統、自然などをより認識することができる	
40	ひよこアレンジメント作り	子ども同士交流して友達の輪を広げる 紙粘土と黄色いモールで制作	
41	もの作り体験(p32 参照)	自然の素材を使い、豊かさに触れる	
42	ガーデニング(世界のお花)	ガーデニングを通して、いのちを育むことを体験すると同時に世界的視野を育てる	
43	自然ウォッチング(親子で学ぼう)	自然とふれ合うことで地球への感謝の心を持つ	
44	元気な畑(畑仕事)	自然とふれ合うことで地球への感謝の心を持つ	
45	大池ウォッチング～親子で学ぼう～ 〔「君もトンボ博士になろう」「大池の昔、今、未来を考えてみませんか」〕	自然を観察することにより、地球を大切にすることを育む 地域の歴史を知り、清掃を通して、地域の未来を考える気持ちを育む	昆虫図鑑、「トンボ観察ガイド」(兵庫県まちの寺子屋プロジェクト事業、NPO 法人子ども環境活動支援協会)

	アクティビティ	ねらい・目的	使用した教材・参考図書
46	レクリエーション	野外にてみんなで遊び、親睦をはかる	
47	花壇に花の苗、球根を植える	自然に親しむ 病院の方たち、患者さんにきれいな花を見ていただく	
48	「地球の温暖化ってなっに？」 「地球からいなくなってしまう動物たち」	自分達が住む星「地球」が今どういう状態になっているのかを知る よく知る動物たちが絶滅の危機にあることも知る 地球に感謝し、動物に感謝する心を養う	・地球儀 ・せかいちず絵本（戸田デザイン研究所） ・絶滅危機生物の世界地図（丸善） ・不都合な真実（アル・ゴア ランダムハウス） ・ぜつめつ動物園（理論社）
49	自然遺産の迷路	自然遺産の迷路を通して、大自然の驚異と偉大さ、素晴らしさなど様々なことを学ぶ	・自然遺産の迷路～屋久島発、世界一周旅行へ～（PHP 研究所） ・7000年の記憶・屋久島（南日本新聞社）・世界自然遺産・屋久島と花の資料（インターネット）
50	パワーストーン（天然石）のふしぎ	パワーストーンを通して、地球と宇宙の関わりを学ぶ 同時にパワーストーンと人間との関わりも学ぶ	・NHK スペシャル「宇宙・未知への大紀行」からの資料、カール・セーガン「コスモス」、コズミックカレンダー
51	パワーストーン（天然石）のペンダントを作ろう		
52	自分の切手を作ろう	切手作りを通して、世界を一つに結ぶ心を育む	・日本郵政公社のホームページより「日本の切手と郵便」 「切手デザイナー」 ・読売新聞 2007年9月22日 KOPOMO 新聞より
53	世界一周コンサート	音楽を通して、世界の異なる文化を理解すると同時に様々な音楽の素晴らしさを体験する	・七つの子、ソナタ、ノクターン、黒猫のタンゴ、タフワフアイ、コンファメーション、世界が一つになるまで、などの楽譜

	アクティビティ	ねらい・目的	使用した教材・参考図書
54	ゲーム 「世界一周旅行」	ゲーム「世界一周旅行」を通して、外国を地図で確認し、世界を身近なものとする	・ゲーム「世界一周旅行」 ・ビンゴ
55	お子さまランチはどここの国 (p29 参照)	お皿の上に立てられた国旗を確認することで、国際交流を身近なものとし、食料などの輸入国への感謝の心を引き出す	・世界地図
56	手話ソング	自分の周りにいる人は尊く感謝すべき存在であり、人との調和、世界は一つであることを学ぶ	・歌でおぼえる手話ソングブック ・ともだちになるために（ピクチャーCD）
57	コカリナ演奏発表会	今まで練習してきたコカリナ演奏を通して、大きな舞台、大勢の方の前で成果発表をする体験	
58	お誕生日会	一人ひとりの存在の尊さを知る機会 みんなでお祝いする気持ちを養う	
59	いいところ探し	一人ひとりのいいところを伸ばし、協調性や思いやりの心を引き出す。	
60	マインドマップ	先入観を持たずに発想力、想像力を働かせて物事を考える	・「フィンランド・メソッド入門」 ・「フィンランド国語教科書」経済界
61	みんな仲良く遊ぼう「ボール遊び」	子ども達のコミュニケーション	
62	みんな仲良く遊ぼう「数取りゲーム」	子ども達のコミュニケーション	
63	みんななかよし 「民話の読み聞かせ」	子ども達のコミュニケーション 地域の民話に触れる	
64	みんななかよし 「お絵かき」	子ども達のコミュニケーション	

	アクティビティ	ねらい・目的	使用した教材・参考図書
65	みんななかよし 「国旗選び」	平和の心を養う 子ども達のコミュニケーション	
66	平和の木 (p30 参照)	優しい言葉、明るい言葉、感謝の言葉などポジティブな言葉をりんごの 実の形の短冊に書き、「平和の木」を 完成する	

*実施に向けて、各アクティビティの詳細をご希望の場合は、本委託研究事業事務局（五井平和財団内）までお問い合わせください。

3つのお約束

- 1 人にめいわくをかけない
- 2 自分のことは自分です
- 3 あまった力で、人の手助けを
しよう

このお約束は、居場所の大前提として毎回子どもたち皆で、声に出して確認し合います。このお約束を皆で声に出して唱えていると、子ども自身が心に留め、互いに、お約束を守ろうと自ら取り組みはじめます。

このルールの実感しているという声は、当財団の居場所のみならず、学校・家庭・様々な関係者からも続々と報告されています。

活動参考資料集

本事業テーマであります「国際感覚にあふれ平和を愛する地球人を育てる」に関連するアクティビティや教材の参考となる、団体やHP、資料などをご紹介します。

国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）

問い合わせ先：日本 UNHCR 協会
TEL / 03-3499-2450（受付時間 10：30～17：30）
FAX / 03-3499-2273
<http://www.unhcr.or.jp/>

国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）とは…

世界には約 1900 万人もの人々が家を追われ、不安な生活を強いられています。彼らを保護し、生活の手助けをするのが UNHCR の役割です。UNHCR は、緊急事態に対応して食糧や水、避難所を提供するだけでなく、1951 年に成立した難民条約に基づいて、難民や庇護希望者などの基本的人権が保障されるよう、また解決策が見つかるよう支援しています。

『DVD・ビデオ教材』

ほんのちょっと変えてみよう
難民になるってどういうこと
難民女性
難民もみんな同じ地球人
アンゴラ難民—自立への道
※すべて送料負担で無料貸し出し可能。

『学習訪問』

国連の難民支援活動に協力する日本 UNHCR 協会では
・修学旅行での班別学習
・総合学習での自由研究
・難民問題を通して人道支援や平和について考え、国際理解教育の一助としたい
上記のご要望にお答えして、小・中・高校生の皆さんの学習訪問をお受けしています。

国際連合教育科学文化機関（UNESCO）

連絡先：社団法人 日本ユネスコ協会連盟
TEL：03-5424-1121
FAX：03-5424-1126
<http://www.unesco.jp/>
参照：財団法人 ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）
<http://www.accu.or.jp/jp/shop/index.html>

ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）とは…

ユネスコ（国際連合教育科学文化機関、United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization U.N.E.S.C.O.）は、諸国民の教育、科学、文化の協力と交流を通じて、国際平和と人類の福祉の促進を目的とした国際連合の専門機関です。

『学習訪問』

日本ユネスコ協会連盟では、次代を担う子どもたち（小～高校生）に対して、ユネスコ活動を知っていただくための機会として簡単な学習会を実施しています。国連機関の UNESCO の役割や、民間で行われる様々なユネスコ活動などをご紹介します。

『世界遺産

ユネスコ隊員パック』

小学校高学年以上を対象とした「世界遺産」をテーマとした教材。
※下記のホームページより無料でダウンロード可能。
【世界遺産 ユネスコ隊員パック】
<http://www.unesco.jp/contents/isan/pack1.html>

『ユネスコピースパック』

「平和の文化国際年」を日本の子供たちに分かりやすく説明する教材として、また、2002年から実施される学習指導要領の改訂に基づく「総合的な学習の時間」の補助教材としてご活用いただけます。
 ※下記のホームページより無料でダウンロード可能。
 【ユネスコピースパック】
http://www.unesco.or.jp/teacher/kyozai_f/pp/pp_01.htm

『DVD・ビデオ教材』

ミナ笑顔 → 識字教育理解
 ミナの村のごみ騒動 → 環境教育
 アジア太平洋の民俗舞踊2 → 異文化理解、世界遺産 ほか

『絵本』

アジアの友だちに会おう！ → 異文化理解
 Guess What I'm doing! → 識字教育
 太陽 → 環境教育
 アジア太平洋写真カタログ「私たちの装い」(Clothes and People) → 異文化理解など

国際連合地域開発センター (UNCRD)

地域の国際理解教育支援に関する連絡先：
 ・名前・所属（学校名・学年、あるいは団体名）・住所・連絡先 電話番号（FAX 番号）
 ・E-mail アドレスを明らかにしてお問合せください。
 〒450-0001 名古屋市中村区那古野 1-47-1
 国際連合地域開発センター 広報室
 TEL：052-561-9390（担当：井上）
 FAX：052-561-9374
<http://www.uncrd.or.jp/ja/>

UNCRD とは…

私たちが住んでいる地域をもっと住みやすくしようと、地域づくりの仕事をしている人がちがいます。この仕事を地域開発と言います。地域開発をしているのは、県や市町村などの役所で働く人たち（自治体職員）、NGO と呼ばれる組織で働く人たち、あるいは研究者たちです。UNCRD は、開発途上国の地域開発をしている自治体職員や研究者を集めて、地域開発に関する研修をおこなっています。また、地域開発に関する問題を調べて考える調査研究を行っています。UNCRD は、研修に参加している研修生と、日本だけでなく、様々な国が今まで経験した地域開発の例を共有したり、話し合ったりすることで、それぞれの国の状況にあった地域づくりの計画をたてたり、時にはそれを実行できるようにアドバイスします。（UNCRD キッズ HP より）

『地域の国際理解教育支援』

＜派遣プログラム実施例＞

「シエラレオネと国連について～民族楽器を奏でながら～」 「国連の役割と UNCRD の活動って？～水運びの体験を交えて～」 「バングラディッシュ人 研究員と民族衣装を作ろう！～異文化理解と国連～」 「スリランカカレーづくりと国連と UNCRD について」 「スリランカ職員とスリランカ料理を作ろう！～国連と UNCRD の活動紹介を交えて～」

国連世界食糧計画 (WFP)

連絡先：〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい 1-1-1
 パシフィコ横浜 国際協力センター 6F
 TEL：045-221-2510 / FAX：045-221-2511
 E-mail：wfp.japan@wfp.or.jp
<http://www.wfp.org> 日本事務所 <http://www.wfp.or.jp>

国連世界食糧計画 (WFP) とは…

国連世界食糧計画 (WFP) は国連唯一の食糧援助機関であり、かつ世界最大の人道援助機関です。飢餓と貧困の撲滅を使命として 1961 年に設立が決定され、1963 年から正式に活動を始めました。（WFP ホームページより）

『学校給食プログラム』

以下よりダウンロード可。また以下のホームページに詳しい詳細あり。
【学校給食プログラム紹介冊子】
<http://www.wfp.or.jp/activities/sfp.html#sfp>

国連食糧農業機関 (FAO)

連絡先：〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい 1-1-1
パシフィコ横浜 国際協力センター 5F
TEL：045-222-1101/FAX：045-222-1103
E-mail：fao-loja@fao.org
<http://www.fao.org> 日本事務所 <http://www.fao.or.jp>

FAO とは…

国際連合食糧農業機関 (FAO) は、人類の飢餓からの解放と栄養水準の改善を目的としている国連で最大の専門機関である。

『KIDS 向け参考情報』

【くらべてみよう 世界のごはんと農業 & それを作る農業】
<http://www.fao.or.jp/kids/sekainogohan.html>

JICA 地球ひろば

連絡先：〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-2-24
TEL：03-3400-7717 FAX：03-3400-7394
<http://www.jica.go.jp/hiroba/index.html>

JICA 地球ひろばとは…

JICA 地球ひろばは、市民参加による国際協力の拠点として多くの市民が訪れ、途上国の人々への共感や連帯感を育む場となり、国際協力に関わる市民団体の情報発信や交流、研修の拠点として利用される場となることを目指して設立されました。

『JICA 訪問』

学校や、修学旅行の訪問を受け入れています。また、国際協力に興味があれば、一人から友人グループ、ご家族でも受け入れをしています。

『JICA 国際協力出前講座』

学校へ講師派遣をしています。

『体験ゾーン』

JICA で学ぶ途上国途上国の暮らしの現状や、地球が抱える問題、国際協力の実際などを、写真・映像・実物資料・造形物などを交え展示しています。「皆さんに途上国の現状と世界の課題を体感していただけます。

特定非営利活動法人 開発教育協会

連絡先：【事務局】
〒112-0002 東京都文京区小石川 2-17-41
富坂キリスト教センター 2号館 3階
E-mail：main@dear.or.jp
TEL：03-5844-3630 FAX：03-3818-5940
<http://www.dear.or.jp/index.html>

開発教育協会 (DEAR) とは…

DEAR は、「開発教育」を推進するためのネットワーク組織で、DEAR の特徴は、様々な立場の人たちが一緒に「学びの場」づくりに参加し、「世界」と「学びの場」をつないでいることです。教育関係者、NGO・NPO、青年海外協力隊 OB・OG、国際機関、国際交流協会、自治体、そして研究者や学生など、幅広い層が参加しています。

*「新・ワークショップ版 世界がもし 100 人の村だったら」などの多くの教材を出版しています。

ERIC 国際理解教育センター

連絡先：〒114-0023 東京都北区滝野川 1-93-5 コスモ西楽鴨 105
 TEL：03-5907-6054（研修系）03-5907-6064（テキスト系）
 FAX：03-5907-6095
<http://www.k3.dion.ne.jp/~eric-net/>

ERIC とは・・・

国際理解教育センター（略称エリック ERIC）は、国際化する市民社会において人類共通の課題を知り、問題解決の意欲と技能を備えた人間形成に役立つ新しい学習・教授法を海外から紹介し、それを実践普及するために日本で最初に設立された資料・情報センターです。

1974年のユネスコ総会での勧告に従って、環境、開発、異文化理解、人権、平和、未来を6つの柱にすえ、研修、出版、資料室、研究の4つのサービスを通して学校教育、社会教育の指導者を主な対象とした数々の国際理解教育推進のための活動を展開しています。

北欧文化教育総合研究所（北総研）

連絡先：フィンランド・メソッド普及会 本部事務局
 〒171-0014
 豊島区池袋 2-60-6 キムスビル 402 号室
 有限会社 イヨ教育事業部 北欧文化教育総合研究所
 E-mail：finmeso@clock.ocn.ne.jp

国際統一テストの読解力部門一位のフィンランドの教育現場で用いられている手法を、研究・紹介しています。

*「フィンランド・メソッド入門」（北川達夫・フィンランド・メソッド普及会 著）
 「5つの基本が学べるフィンランド国語教科書」など制作。

国際理解教育プログラム（EIUP）

連絡先：EIUP 事務局
 〒464-8601
 名古屋市千種区不老町
 名古屋大学大学院国際開発研究科（GSID）内 2階 205
 TEL/FAX：052-789-5082
 受付時間：月・水・金 午後1時～午後5時
<http://www.gsid.nagoya-u.ac.jp/eiup/>

国際理解教育プログラムとは

EIUP/イー・アイ・ユー・ピーと呼びます。名古屋大学大学院国際開発研究科の院生を主体とした非営利団体です。国際開発研究科は、様々な文化的背景、経験を持つ大学院生が、国際的視野から開発・協力・交流について学んでいる研究科です。

このような研究科の特性を生かし、地域の国際化に貢献することは、私たち大学院生にとって身近な国際協力活動の一つではないかと考えます。

*国際理解出張プログラムがあります。

参加者・協力者・保護者の声 ～アンケートより～

本事業に参加、協力をいただいたグループや講師、保護者の方々に、アンケートを実施させていただきました。その結果を元に、各方面の貴重なご感想やご意見をとりまとめました。放課後子どもプラン推進に当たっての指針として、共有していきたい内容と考えます。アンケートへのご協力、真にありがとうございました。紙面をお借りして御礼申し上げます。

Q 参加、協力いただ
いての感想をお聞かせ
ください。

○ ボランティア活動は、いろいろな制約があり、困難なことも多い中、このような取り組みをされているのは、素晴らしいことだと思います。(行政)

○ これからも、このような地域の居場所づくり、子育て支援への取り組みが充実していくよう、私も願っています。(行政)

○ スタッフの方々の熱意、子どもの輝かしい目、どれもすばらしく、うらやましくも感じました。(行政・ボランティア)

○ 普段、子どもと触れ合うことが少ないので、とても新鮮で私自身も楽しむことができました。(ボランティア)

○ 子どもたちと遊ぶ中で「遊びは自由だな、それぞれが自分の遊び場を持っている」と感じています。自分たちの子どもの頃と比較しても遊びは変わっていないと思います。道具は近代的になっていても、「それをしよう、それを使って遊ぼう」と思う気持ちは変わらないですね。(協力団体)

○ 子どもの笑顔は最高ですね。(講師)

○ 子どもたちの、明るくイキイキとした姿が印象的です。(講師)

○ 子どもたちの元気の良さ、好奇心に驚きました。(協力団体)

○ ひと時でも心のドアを開いて、自由に過ごし、本当の自分でいられる場、そしてそれに向き合ってくれる大人がいることは、子どもにとって我が家以上に居場所かもしれないと思いました。(保護者)

○ 子どもたちがいつも楽しみにしています。もっと回数があったらいいほど、心待ちにしています。(保護者)

○ 絵本の読み聞かせ中でも、子どもが質問することに、丁寧に一つ一つ答えてくれることが、子どもにとっては何よりうれしいことだと思いました。(保護者)

○ 子どもたちがスタッフの皆様にとても心を開いている姿がほほえましく、家庭でも学校でも見せない「自分」を見せているのだと感じました。「心の居場所」になっています。(保護者)

○ 初めての体験が多くて学ぶことはばかりなので、いろいろな面が育っています。この居場所がずっと続いてくれることを願っています。

(保護者)

○ 個人ではなかなかできない活動をプログラムにしてあるので、子どもたちが幅広い体験ができて、非常にありがたいと思います。

(保護者)

○ 温かい声かけや見守る姿など、子どもとの信頼関係を感じました。

(保護者)

○ 「手打ちうどん作り」などを通して、子どもたちが、目を輝かせる姿を見て、親子でする活動がいかに大切であるかを強く感じました。

(保護者)

○ ほかの子どもたちや地域の方々と一緒に様々な体験ができることは貴重です。

(保護者)

Q 放課後の子どもの居場所は、どのような点で、地域や社会に貢献できると思われますか？

○ 昔はとなり近所の子どもたちが、放課後一緒に遊び、いろいろなことを学んでいました。核家族化も進み、昔のような近所づきあいの減った今の社会で、いろいろな世代の子どもと接することは、必要かつ大切なことだと思います。

○ 窮屈だといわれるこの現代社会で、子どもたちが、本来の姿を伸び伸びと出せる場所があることは、子どもを育てていく上で、大人も心のゆとりができると思います。

○ 孤独な子どもを減らすことになっています。

○ 子どもの「中退」、「ひきこもり」などの教育現場を見えています。居場所において、大人や地域の協力者、講師が関わることで、子どもたちはもちろんのこと、親への影響もたいへん大きいと感じています。

○ 地域社会の大人たちで、共に子どもを育てることを可能にする場だと思います。

○ 今の世の中、公園で遊んでも家の近所でも何が起るかわからない社会状況なので、安心して遊んでいられる場所があることは必要です。

○ 学校では得にくい、「学び」の場の保障してあげることだと思います。例えば、地域の植物や動物の生育調査を通じて、自然環境が失われていることを知り、それに対して何ができるかを考え、行動する機会を持つことができれば、子どもたちの知的好奇心を刺激することができ、学ぶ意欲を喚起できると思います。

○ 居場所があることは、どんなに安心でうれしいことか。何かあったら助けてくれる大人がいるということが地域の安全な環境を作ることになるのではないのでしょうか。

○ 本当は、いつでも誰でも立ち寄れる居場所があることが理想です。

○ 家族全員が地域と結びつき、子育ての役割も充分果たされていると思います。

Q 今回の事業は、「国際感覚にあふれ平和を愛する地球人を育てる」という新しい平和教育を模索したものともいえませんが、こういった取り組みの必要性についてのお考えをお聞かせください。

○ 外国の方々との交流は視野が広がり、目の色、肌の色、言語が違って、同じ地球人なのだと感じさせてくれます。今では、外国人を見ると避けていたのが、子どもが避けなくなりました。平和教育は必要だと思います。

○ 日本文化を大切にしながら、国際感覚にあふれた子どもを育成することが大切なことだと思います。

○ まずは、自分たちの住んでいる日本のことを知る、また、自分たちが平和な毎日をごせる幸せを実感することが何より大切だと思います。

○ 互いの立場、相手が生まれるながらに持っている文化や伝統などの背景を理解することが肝要だと思います。あらゆる文化、伝統を理解するための感性が必要になると思います。この感性こそ、この場で養われていると思います。

○ 様々な国について知ること、将来少しでも役に立てる人間になれば良いと思います。

○ 必要性を強く感じますし、もっと多くの大人が積極的に参加し、普及すべき取り組みだと思います。

○ まずは、ということが「平和」なのか、自分が安心してられるのはどんな状態かなどを、身近に感じ、知っていくことが大切だと思います。

○ 「平和」であるためには、何を受け継いでいくのか、これから何をしていったら良いのかを考える機会が欲しいと感じています。

コミュニケーションや人間関係の向上が「国際感覚にあふれ平和を愛する地球人を育てる」ことにつながるのだと思います。

○ 外国の人たちと交流したり、音楽、手芸、工作などを通して、平和を愛する優しい心を育てていけると思います。

○ どんな人間も一人では生きられない、助け合いの心が必要だと思います。自己中心的な人間が多い中、「国際感覚にあふれ平和な人を育てる」教育が原点なのかもしれませんね。

○ 留学生と触れ合う機会や在日外国人の方々との交流は、地域の国際化、国際理解に非常に役に立っていると思います。

○ 英語を習うこと以上に、いろいろな国の人々と触れ合うことに意義があると思います。

○ 世の中がすすんできている中、愛する心、他人を思いやる気持ちが平和につながると思います。感性豊かな子どもたちに育てる上で、とても良いと思います。

○ 地域の方々の体験談や、世界にはいろんな人がいるとか、いろんな世界観があることを学ぶだけで、人としての幅が広がると思います。また、それが将来の目標や夢につながっていくと思います。

Q 放課後の取り組みを通して、子どもたちの「心と生命」を育むために何ができると思われますか？

○ 異年齢の子どもたちが集い、遊ぶことにより、大きい子が小さい子の面倒を見るまたは、力の強い子が弱い子の手助けをすることは、普通のことであり、しかしこれは非常に大切なことで、それを自然に体験することが、「心と生命」を学んでいくことだと思います。

○ こういった場があって、大人が見守ってあげるだけで、寂しい思いや孤独な心を抱えている子どもの心を育てていると思います。

○ 畑の野菜の収穫から、食べることの素晴らしさを学び、外国の方々との交流から、出会うことの素晴らしさを学びました。心豊かになることがたくさんあると思います。

○ とにかく、子どもが楽しく笑える場所を提供し続けて欲しいと願います。そして、どんな状況でも、心に余裕を持つことができれば、より良い社会生活を送ることができると思っています。

○ 「心こそ大切なれ」という言葉がありますが、実体験を聞くことが、子どもたちの心に、そして生命に刻まれていくのではないかと思います。

○ まずは、生命のつながり、自分の生命があることの不思議と恵みについて関心を持つことが大事かと思います。昔の人々が築きあげた土台の上に、私たちがあることを実感する機会があれば良いと思います。

○ 学校よりも自由な空間で、規則を守りながら、友達と関わられるので、相手を思いやる気持ちなどが育んでいけると思います。

○ 病気の方々、老人ホーム、妊婦さん、赤ちゃん、身体障害者の方、いじめから立ち直った方など、様々な状況の方と触れ合う機会があることで、心が育まれていくと思います。

○ お年寄りのいる家庭の子どもには、お年寄りに優しい気持ちが育つように、お年寄りと交流する機会があれば、「優しい心」が育つのではないかと思います。

○ 昔の子どもたちがしていたように、草花を使って遊んだり、探検ごっこをしたり、虫をつかまえたり、野山を駆け回って遊んで欲しいと思います。そういった自然との関わりの中で、「心」や「生命」が育まれるのだと思います。

○ 「生命の大切さ」を感じることができる本を選んでその内容を語ってもらうこともいいかと思います。出産体験や戦争体験を語ってもらうという企画もいいかもしれません。

○ 動物を飼って見守り育てることは、生命を尊ぶチャンスになると思います。

「21世紀の国際人を育てる」 未来へ向けた新たな視点

本委託研究事業では「国際感覚にあふれ平和を愛する地球人を育てる」をテーマに全国各地で様々な取り組みがなされてきましたが、このテーマは、子どもの居場所づくりを始めとする活動において、今後益々重要になるものと考えられます。ここでは改めて、21世紀を大きく見据えた、こ

国際感覚あふれる児童の育成をめざして

宝塚市立長尾台小学校
校長 町田陽子

「情報化社会」「グローバル化」などの新しい言葉を教育界でも耳にする機会が増えています。地球上のどこかで起こった出来事が瞬時にして世界を駆け巡り、居ながらにして全世界のニュースを知ることができる非常に便利な世の中になりました。これらの情報を適切に活用し、人々がより平和で心豊かな社会を構築しようとする意識と力を持った子どもの育成が、今、強く求められています。

頭も心も柔軟で、素直に物事を受け入れることができる小学生の時期にこそ、できるだけ多くの国の文化に触れ、外国の人々に実際に会おう体験を積み上げておくことが国際感覚を磨く上でとても大切であると考えます。五井平和財団が推進される「駐日外交官による交流プロジェクト」の一環として、これまで宝塚市に、ガーナ、モザンビーク、レソトの大使閣下にお越しいただきました。一国を代表する大使自らが子どもたちと直接触れ合ってくださいましたことは、本市の子どもたちにとって大きな財産となりました。子どもたちが今後、国際社会で様々な国々と関わっていくとき、この小学校時代の体験が必ずや大きな役割を果たしてくれるものと信じます。

学校では総合的な学習の時間や道徳の時間に、平和教育、国際理解、命の教育に取り組んでいます。体験活動と共に子どもの日頃の生活のあらゆる場面で指導を重ねていくことの必要性を感じます。日常的に各種の情報を提供し、その情報をもとに互いに考えを交流することができるコミュニケーション能力を培うことも重要なことです。

文部科学省からの委託で始まった財団法人五井平和財団の子どもの居場所づくりが、宝塚市で行われるようになって3年が経ちました。この事業の恩恵を受けた小学校は3校になります。宝塚市の「地球っ子広場」は、地球っ子広場ボランティアの方を中心に、多くの一般の方に講師として関わっていただいている運営されています。関西学院大学や宝塚造形芸術大学の学生ボランティアの協力も大きいです。プログラムは、年間計画に基づいた楽しい活動と共に、地球上の多くの国々の人々への理解と連携にも力を注いだ内容となっています。

今後も、財団法人五井平和財団をはじめ学校外部の方々のあたたかいご支援とご協力をいただきながら、地球人としての相互理解、平和について積極的に発信していくことができる、21世紀の子どもたちの育成に全力で取り組んでいきたいと考えています。

れからの教育、子育て、人づくり、平和な世界の創造などについて、本事業にご協力頂いたお二人の方にメッセージを頂きました。小学校教育の現場で活躍され、現在は校長を務められる町田陽子氏、そして、ビジネスの分野で長年に亘り世界を回り、各国の人々と交流をされてきた有友 淳氏です。

これからの子どもの居場所づくりにおいて、大人たちが共有してゆきたい視点を、関係者の皆様と共に汲みとり、実践に生かしてまいりましょう。

国際感覚にあふれ平和を愛する地球人とは

元 富士通株式会社 海外統括営業部長
有友 淳

人間には人種・国籍・年齢・性別を問わず快く暮らしたいという共通の希求がある。その希求を不用意かつ自己中心的に周囲への影響を顧ずに追求していくと、隣人との間でしばしばコンフリクト(対立)が起きる。

私たち一人ひとりが地球人・地球市民であることを真に自覚すれば、相手の犠牲の上に自分の利益を望むということに内在する、根本的な無理・不合理さが理解できるはずである。そもそも戦争は決してコンフリクトの真の解決には決してならず、報復が報復を呼ぶ最悪の選択である。‘I have a dream’の名演説で有名なマーティン・ルーサー・キング牧師が米国黒人の公民権獲得の闘いの中で唱えたように、相手から暴力を受けてさえも、話し合いによる解決を目指してゆく「非暴力の闘い」は尊く、それが真の勝利へと結びつく。

人間は一つの口、二つの目、二つの耳を持つことにおいて共通であるが、住まう地域、歴史、伝統、宗教、文化などに根ざす価値観は大きく異なっている。豊かな国際感覚とは、この価値観の多様性を受入れ、差異を広く理解できる能力・感覚であり、相手の主張を尊重・理解して、自分が欲するのと同じように相手の欲していることを知る人々が、平和を愛する地球人といえるのではないか。

しかしこれが言うは易く、行うは実に難い。貧民救済のために一生を捧げたマザーテレサの言葉のように、まずは「すべての自分本位の考え、憎しみ、恨み、ねたみ、欲張りを避け、私たちの心、魂、精神、力において神を愛し、神が愛するように人を愛する」境地に至らなくてはならないのであろう。

私は、万人の生活の根底にある共通の価値観と行動原理を自分が理解し、人々にも理解させる役割を、平和を愛する地球人の資質の一つに挙げたい。この役割を担うには、客観性、公平性、寛容、愛、忍耐、情熱、意志力に加え高潔な人格が求められる。その人格の陶冶はまず自分の足下の家庭、地域社会に熱い情熱を持って誠実に奉仕することから始まる。マザー・テレサがノーベル賞受賞後のインタビューで「世界平和のために私たちはどんなことをしたらいいですか」と尋ねられ、「家に帰って家族を大切にしてください」と答えたのは貴重な示唆である。口先だけできれいごとを言ったところで実践が伴わないのではむなし。平和活動が本人のよろこびと生き甲斐につながってゆくことこそ、活動を持続可能ならしめるポイントである。

昨今の「地球温暖化」に関する世界の連帯的活動は、人々の心が一つになりつつある兆しのように見えて、勇気を与えてくれる。私たち一人ひとりが「平和を愛する地球人」であるという証左であろう。こうして平和を希求し、実際に行動する人類の総和が、近い未来にクリティカルマス（臨界点）に達する予感がある。

成果発表会と事業実施地域

活動モデル実践者である各地の指導者たちが、本事業「総合的な放課後対策推進のための調査研究」の実践成果を発表しました。平成20年1月15日（火）、東京で行った「全国成果発表会」（p4参照）を皮切りに対象地域の各地において「地域成果発表会」が開催されました。

地域成果発表会開催

開催広場名	日時	場所	代表者氏名
五井	平成20年2月9日（土）	サンプラザ市原10F 研修室（千葉県市原市）	照井一子
いすみ	平成20年2月23日（土）	岬公民館 （千葉県いすみ市）	永井栄子
世田谷	平成20年2月24日（日）	船橋児童館 （東京都世田谷区）	関 優子
豊田	平成20年2月13日（水）	日野市立豊田地区センター （東京都日野市）	吉田ひとみ
川崎	平成20年2月9日（土） 平成20年2月10日（日）	元住吉プレーメン通り （神奈川県川崎市）	相澤弘美
くりのこ	平成20年2月3日（日）	中央公民館 （長野県須坂市）	山浦弘子
新潟	平成20年2月20日（水）	大畑少年センター （新潟県新潟市）	井上眞澄
ふじ	平成20年2月9日（土）	今泉公民館 （静岡県富士市）	山下いづみ
甲陽園	平成20年2月9日（土）	西宮市立甲陽園市民館 （兵庫県西宮市）	福岡妙子
ヒロシマ	平成20年2月9日（土）	自宅 （広島県広島市）	土井奈保美
まえばる	平成20年2月2日（土）	自宅 （福岡県前原市）	杉浦美音子
夢つごろう	平成20年2月10日（日）	赤松公民館 （佐賀県佐賀市）	藤井文子
おきなわ	平成20年1月27日（日）	宜野湾市立大謝名小学校 （沖縄県宜野湾市）	亀島恵美子

事業実施地域 13 力所

本委託研究事業は、五井平和財団が全国展開する地球っ子広場の下記 13 力所にて実施しました。

新潟（新潟県）、くりのこ（長野県）、世田谷（東京都）、豊田（東京都）、五井（千葉県）、いすみ（千葉県）、川崎（神奈川県）、ふじ（静岡県）、甲陽園（兵庫県）、ヒロシマ（広島県）、夢つごろう（佐賀県）、まえばる（福岡県）、おきなわ（沖縄県）



「放課後子どもプラン」の教育担当、福祉担当の両部をはじめとする行政、学校、子育て関係者、NGO/NPO、企業、ボランティアの皆様、また、地域協力者の皆様方に深甚なる感謝を申し上げます。

平成 19 年度 文部科学省委託研究事業「総合的な放課後対策推進のための調査研究」
放課後活動支援モデル事業実施体制

1) 推進母体

財団法人五井平和財団が、文部科学省と本事業の契約を締結し、13カ所の地球っ子広場に於いてそれぞれの特色を生かした活動を策定、実施しました。契約による事業実施の期間は、平成19年度8月7日～平成20年2月29日。

2) 運営委員会

五井平和財団内に、「総合的な放課後対策推進のための調査研究」運営委員会を設置しました。

運営委員会委員長	富岡賢治（群馬県立女子大学長）
運営委員（監査）	相原甫二雄（相原公認会計士事務所所長 公認会計士 税理士）
運営委員	赤野間征盛（特定非営利活動法人 日本 UNHCR 協会代表理事）
	有友 淳（元 富士通株式会社 海外統括営業部長）
	内山宗昭（工学院大学助教授）
	堀川香織（医療法人 堀川会常務理事）

-
- 本報告書の作成に当たり、関係する多くの団体、個人の皆様に多大なるご協力をいただきました。誠にありがとうございました。この場を借りまして、厚く御礼申し上げます。

平成 19 年度 文部科学省委託研究事業「総合的な放課後対策推進のための調査研究」
放課後活動支援モデル事業 報告書
未来を担う人づくり 誰でもできる子どもの居場所
～「国際感覚にあふれ平和を愛する地球人を育てる」活動モデル～

平成 20 年 2 月 25 日 発行

発行 / 財団法人五井平和財団内
「総合的な放課後対策推進のための調査研究」運営委員会
〒102-0093 東京都千代田区平河町 1-4-5 平和第一ビル
TEL 03(3265)2071 FAX 03(3239)0919
E-mail : kids@goipeace.or.jp
<http://www.goipeace.or.jp>
<http://www.earth-kids.net>（地球っ子広場）

- 転載ご希望の方は五井平和財団までお申し出下さい。